0. 調査の目的と方法

「まちにわ ひばりが丘」（以下「まちにわ」）の活動が地域の居住者にどう受け止められ、どのような効果を生んでいるか、また今後の活動のなかでどのような課題が存在し得るかを明らかにすることを目的に、「ひばりが丘フィールズ一番街」「ひばりが丘フィールズ二番街」「ひばりが丘フィールズけやき通り」「UR 賃貸住宅ひばりが丘パークヒルズ」（以下それぞれ「一番街」「二番街」「けやき通り」「パークヒルズ」）の居住者を対象にアンケート調査を実施した（表 0）。

設問は、①回答者の属性、②「まちにわ」の認知度とイベント等への参加、③「まちにわ」の運営、④「ひばりテラス 118」(以下「ひばりテラス」)の利用と運営、⑤地域のつながり、⑥まちへの愛着と期待、の大きく 6 項目からなる。

依頼文および質問票は巻末に示す。

表 0. アンケート調査の概要

対　象	ひばりが丘フィールズ一番街（分譲：144 戸） ひばりが丘フィールズ二番街（分譲：156 戸） ひばりが丘フィールズけやき通り（分譲：119 戸） ひばりが丘パークヒルズ（UR 賃貸：1528 戸）	
方　法	分譲：各戸に投函、管理組合ポストにて回収 UR 賃貸：郵送にて返送	
期　間	配布：2016 年 11 月	回収：2016 年 12 月
回収率	一番街：42.3%（配布数 144、回収数 61） 二番街：21.3%（配布数 155、回収数 33） けやき通り：35.1（配布数 119、回収数 42） パークヒルズ：10.8%（配布数 1387、回収数 150）	

1. 回答者の属性

まず、回答者の基本的な属性を示す。「住まい」は分譲と賃貸がそれぞれ半数を占める。分譲のなかでは「二番街」の回答がやや少ない（図 1-1）。

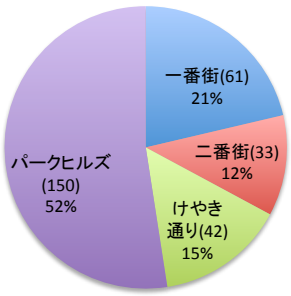

図 1-1. 住まい（n=281）

「性別」は 2/3 が「女性」である（図 1-2）。「年齢」は「40 代」以下が半数、「70 代」以上が 1/4 を占める（図 1-3）。「家族形態」は「親と子（未成年を含む）」からなる世帯が 4 割近くと最も多く、「夫婦」のみ（30%）、「一人暮らし」（20%）と続く（図 1-4）。「職業」は「会社員」が 3 割、「無職」が 1/4、「専業主婦・家事手伝い」が 2 割である（図 1-5）。

ひばりが丘というまちでの「居住年数」は、「5 年未満」が 6 割と最も多いが、「20 年以上」の世帯も 1/4 いる（図 1-6）。

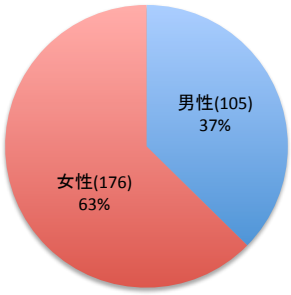

図 1-2. 性別（n=281）

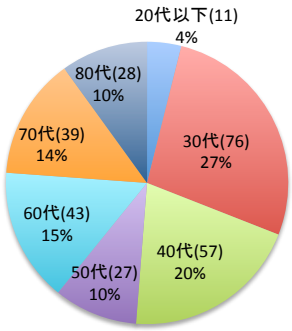

図 1-3. 年齢（n=281）

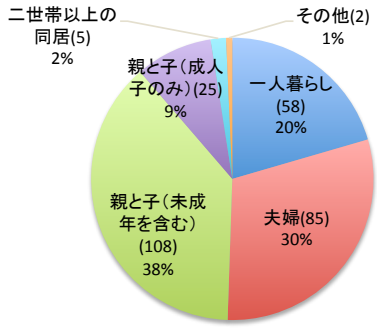

図 1-4. 家族形態（n=283）

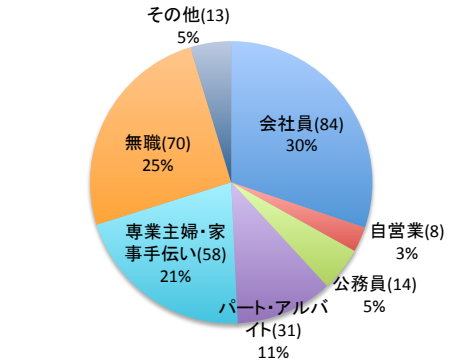

図 1-5. 職業（n=278）

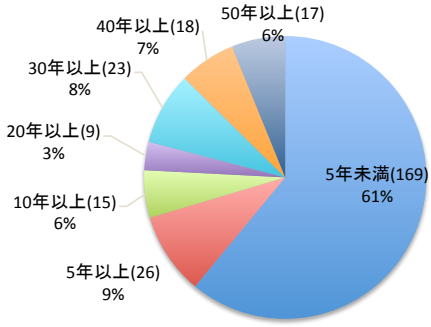

図 1-7.居住年数（n=277）

図 1-8～12 は、以上の「性別」「年齢」「家族構成」「職業」「居住年数」を「住まい」毎に示したものである。「パークヒルズ」の居住者は高齢の単独世帯が多い状況がうかがえる（図 1-9、10）。戻り入居の多い「パークヒルズ」では「居住年」も比較的長く、4 割近くは「30 年以上」の居住歴がある（図 1-12）。また、「けやき通り」も他のマンションと比較すると、比較的居住歴のある居住者が 2 割程度存在する。

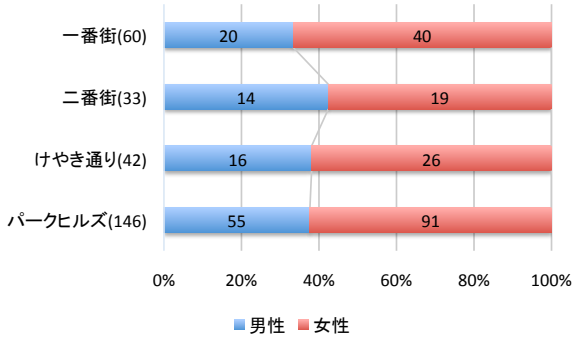

図 1-8. 住まいと性別

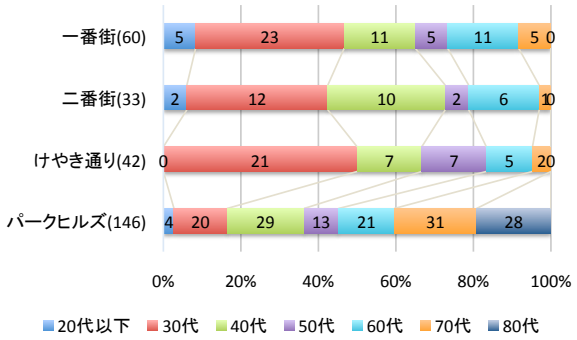

図 1-9. 住まいと年齢

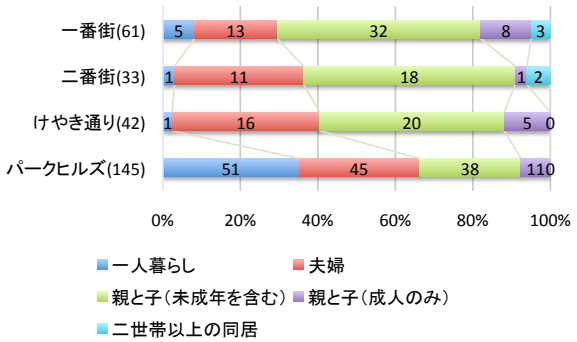

図 1-10. 住まいと家族構成

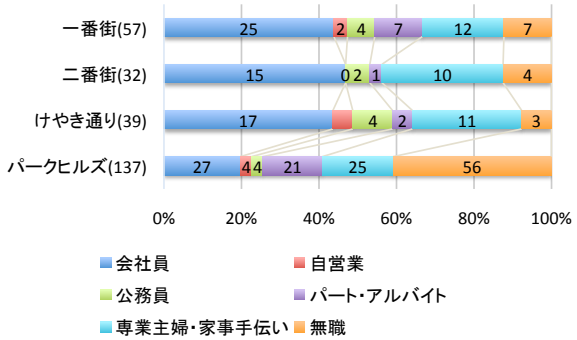

図 1-11. 住まいと職業

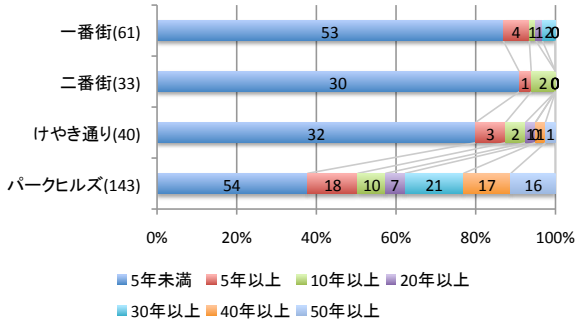

図 1-12. 住まいと居住年数

図 1-13、14 は、回答者の「年齢」別に見た「家族構成」「性別」である。「40 代」以下の世帯では、大半が「親と子（未成年を含む）」からなる子育て世帯である。また、「女性」の回答者は若い年代が多い。

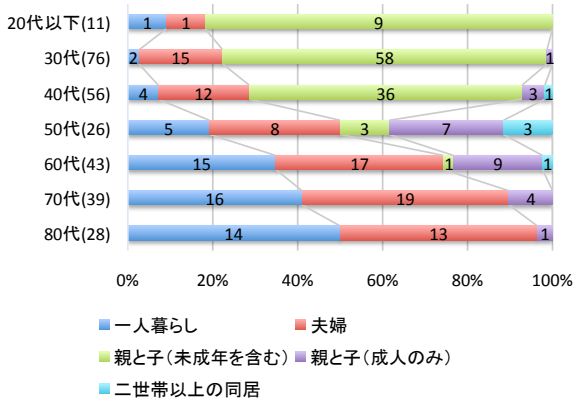

図 1-13. 年齢と家族構成

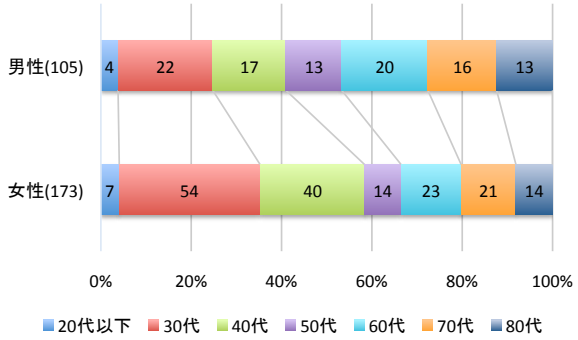

図 1-14. 性別と年齢

2.「まちにわ」の認知と参加

2-1. 「まちにわ」の認知度

「まちにわ」を知っているかどうかを尋ねたところ、半数近くが存在・活動ともに「知っていた」（図 2-1）。街区別には、分譲の「一番街」「二番街」「けやき通り」では 9 割以上が何らかのかたちで認知しているが、「パークヒルズ」では 1/3 が「知らなかった」と回答している（図 2-2）。

今回が 2 回目の調査となる「一番街」「二番街」について、2015 年度からの変化を示したものが図 2-3 である。「一番街」「二番街」いずれも「まちにわ」を「知っていた」回答者が増加しているが、その伸びは前回調査時に入居後間もなかった「二番街」において顕著である。

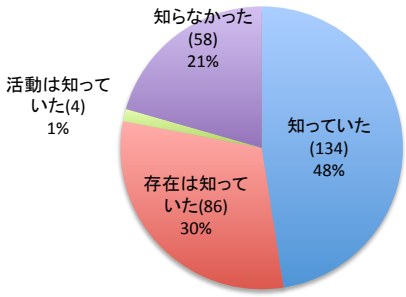

図 2-1. 「まちにわ」の認知度（n=282）

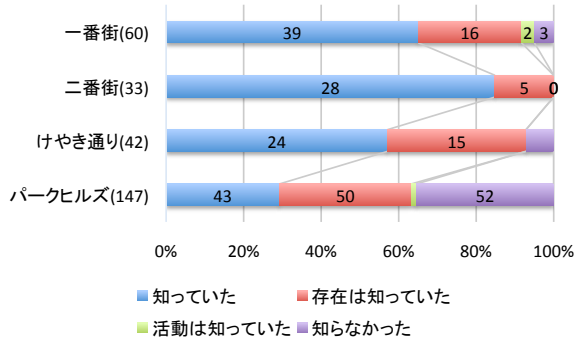

図 2-2 住まいと「まちにわ」の認知度

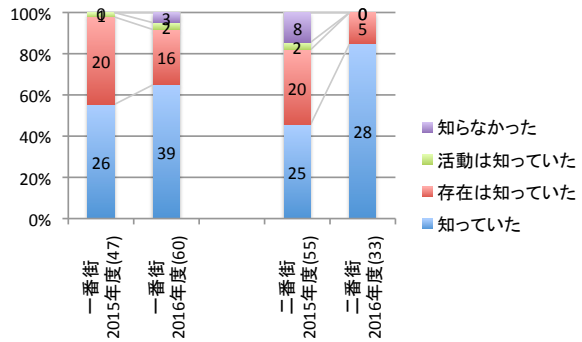

図 2-3「まちにわ」の認知度の推移

図 2-4、5 は、「まちにわ」の認知度と「性別」「年齢」の関係を示したものである。「性別」は「女性」の方が、「年齢」は（「20 代」を除けば）若いほど認知度が高い。

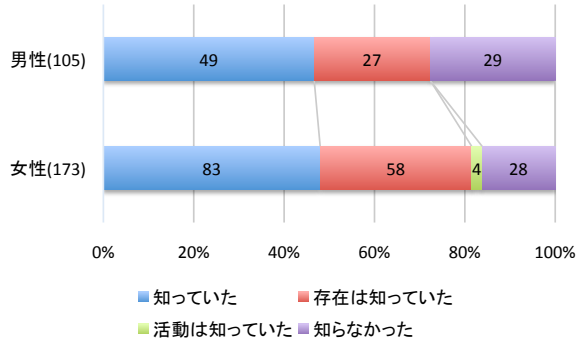

図 2-4. 性別と「まちにわ」の認知度

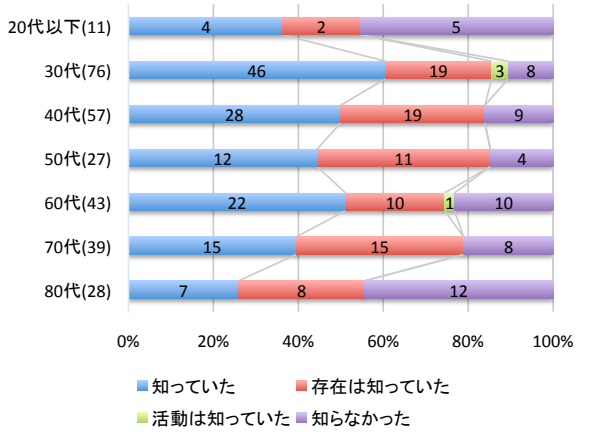

図 2-5. 年齢と「まちにわ」の認知度

2-2. イベントへの参加状況

この一年の間に「まちにわ」のイベントに参加したことのある回答者は、全体の 1/3 である（図 2-6）。「住まい」別に見てみると、分譲の「一番街」「二番街」「けやき通り」では参加者がおおむね半数を占めるが、UR 賃貸の「パークヒルズ」では 2 割に満たない（図 2-7）。

図 2-8 は、「一番街」「二番街」のイベント参加状況の変化を示したものである。「一番街」はおよそ 4 割のまま変化が見られないが、「二番街」は昨年度の 4 割から今年度は 6 割へと参加率が上昇している。

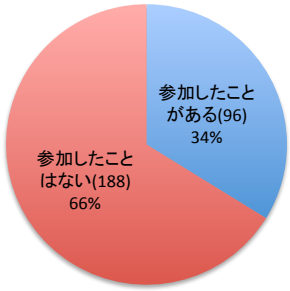

図 2-6. イベント参加状況（n=284）

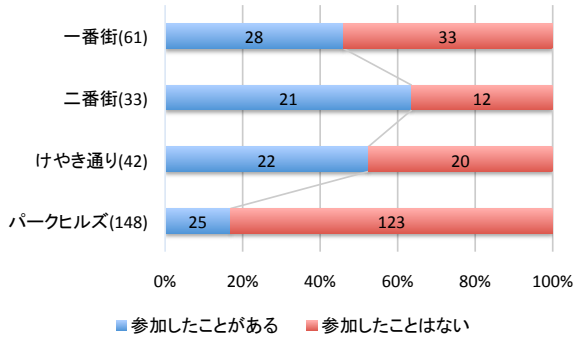

図 2-7. 住まいとイベント参加状況

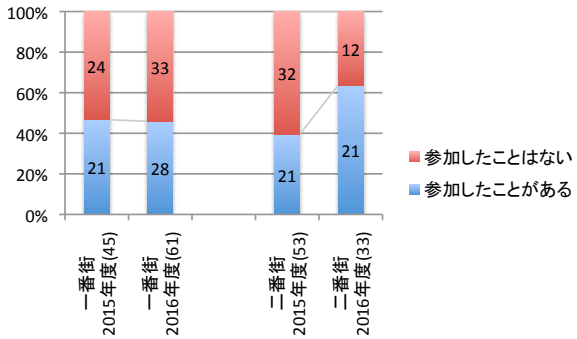

図 2-8. イベント参加状況の推移

参加したイベントは図 2-9 の通りである。「その他」としては、「オープニングイベント」「(マンションの)アニバーサリーパーティ」「フラワーアレンジメント」「ランニング」「タヒチアンダンス」「アロマの虫よけスプレー作り」「ベビーマッサージ」「平日の大人向け英会話」「落ち葉拾いイベント」「青空絵本読み聞かせ」「体操の講習会」などが挙がった。

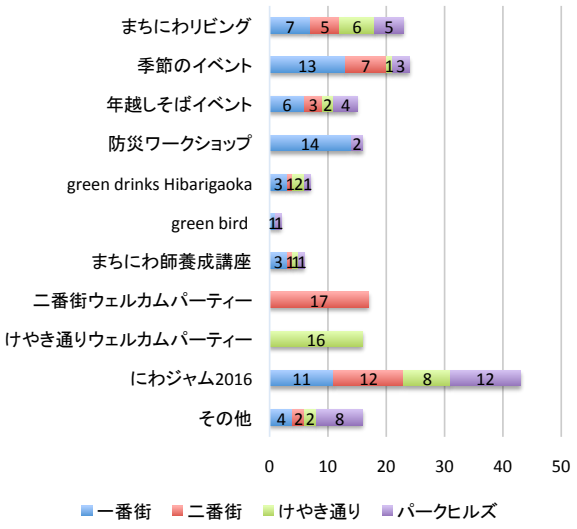

図 2-9. 参加したイベントと住まい（複数回答／n=96）

図 2-10、11 は、イベントへの参加状況と「性別」「年齢」との関係を見たものである。図 2-4、5 で見た「まちにわ」の認知度と同様に、「性別」は「女性」の方が、「年齢」は若い世代ほど参加率が高い。実際に参加したイベントを見てみると、すべての企画において「女性」の参加者が「男性」を上回っているが、「季節のイベント」「防災ワークショップ」では男女の割合が拮抗している（図 2-12）。また「年越しそばイベント」「防災ワークショップ」では、比較的高い年代の参加者を得ている（図 2-13）。

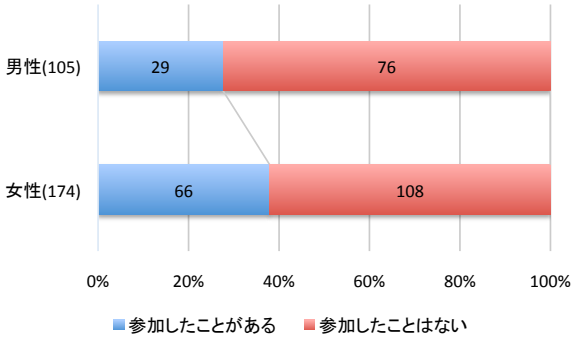

図 2-10. 性別とイベント参加状況

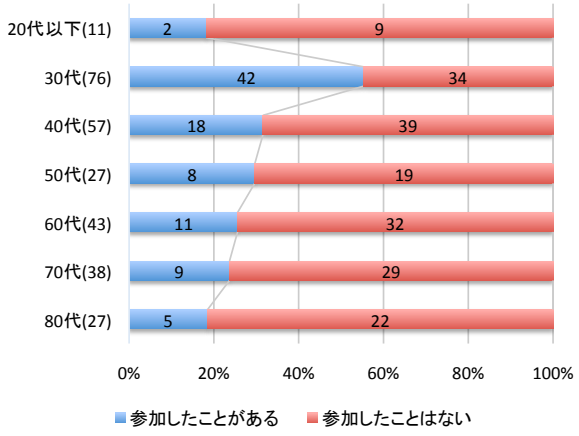

図 2-11. 年齢とイベント参加状況

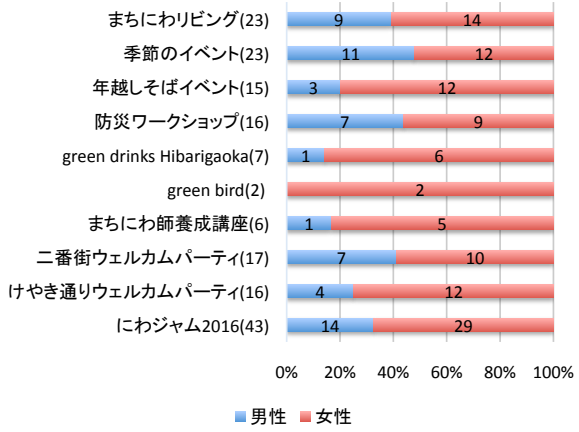

図 2-12. 参加イベントと性別

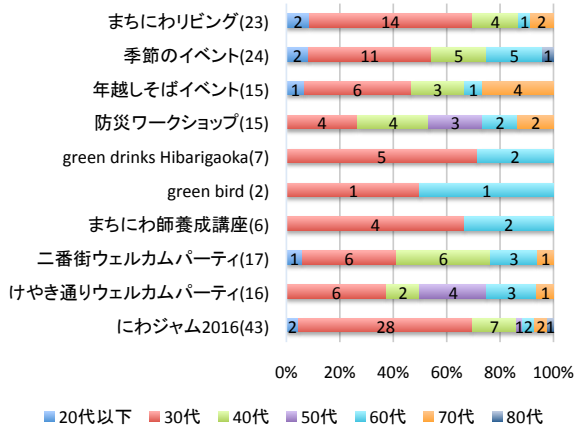

図 2-13. 参加イベントと年齢

2-3. イベントへの不参加理由

図 2-14[1]に示すように、イベントに参加しなかった理由は「よく知らなかった」が 4 割強と最も多いが、「関心はあったが参加できなかった」との回答も 3 割近く

[1] 回答には、図 2-4「イベント参加状況」で「参加したことがある」と答えた 2 件、「その他」と答えた 1 件、未回答だった 3 件が含まれている

を占める[2]。

これと「住まい」との関係を見てみると、「よく知らなかった」回答者は「パークヒルズ」に多い。また、「二番街」では「知っていたが関心がなかった」との回答が目立つ（図 2-15）。

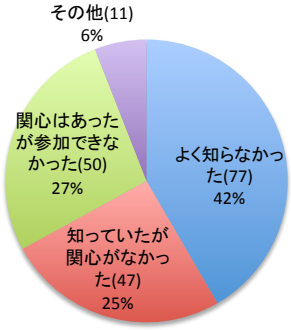

図 2-14. イベントに参加しなかった理由（n=185）

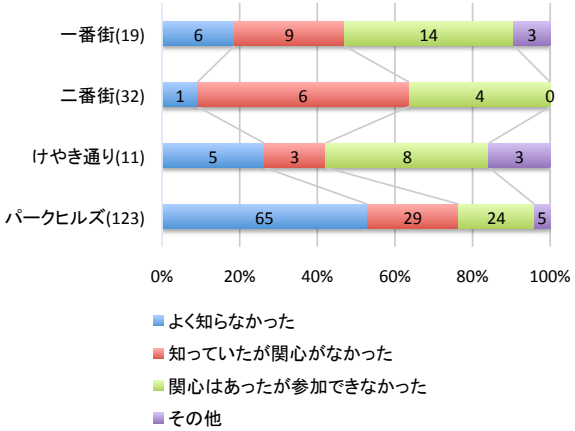

図 2-15. 住まいとイベントに参加しなかった理由

イベントに「参加しなかった理由」と「性別」の間には目立った関係は見られない（図 2-16）。「年齢」との関係では、「関心はあったが参加できなかった」回答者が若い世代を集まっている傾向がうかがえる（図 2-17）。

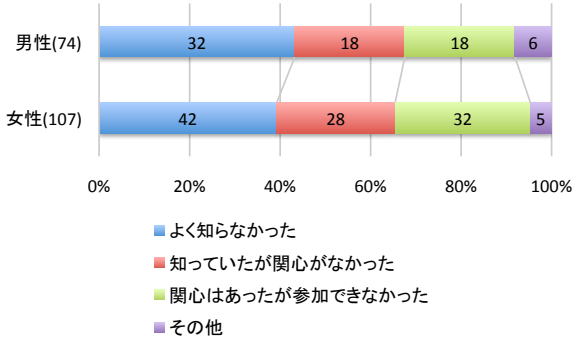

図 2-16. 性別とイベントに参加しなかった理由

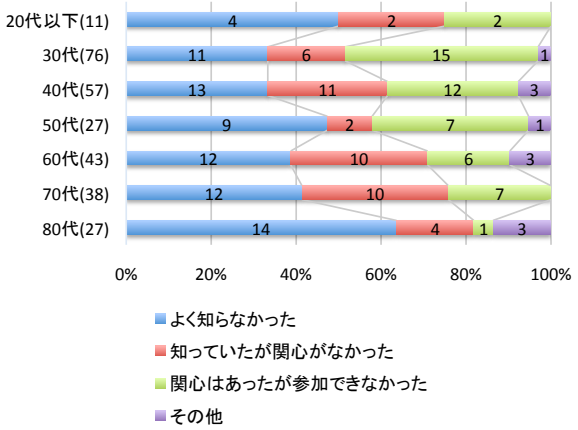

図 2-17. 年齢とイベントに参加しなかった理由

2-4. 希望するイベント

今後「企画したい／して欲しいイベント」を尋ねたところ、図 2-18 の結果が得られた。「健康・運動」「趣味の交流」「防災・防犯」関連のイベントへの要望が特に多いが、幅広い分野への関心がうかがえる。

「その他」としては、「ひばりが丘フィールズ合唱団・オーケストラ・アンサンブル・演劇集団など」「地元農産物などの販売」「マルシェ（地域の農産物、東大農場の農産物などの販売）」「お神輿・子供神輿」「フリートーク」「大人も本気、特大ピタゴラスイッチを作ろう！」「もちつき」「やきいも」「まちをきれいにする（ゴミ拾い、草むしり、公園に花を植える）」「リースづくり」「ポーセラーツ」「アイシングクッキーづくり」「クッキング教室」「県人会」「マタニティ」「フリーマーケット」「音楽祭」「スポーツ観戦（スポーツバー）」「芋煮会」などが挙がった。

「住まい」との関係では、「高齢者の暮らし」への関心は「パークヒルズ」で特に高い。

[2] 「その他」としては、「時間がなかった」「引っ越してきたばかり」「健康上の理由」「土日は仕事で参加できないため」「関心はあったがいく勇気がなかった」「30、40 代の子育て世代向けのイメージがあるため」「高齢のため」などが挙がった。

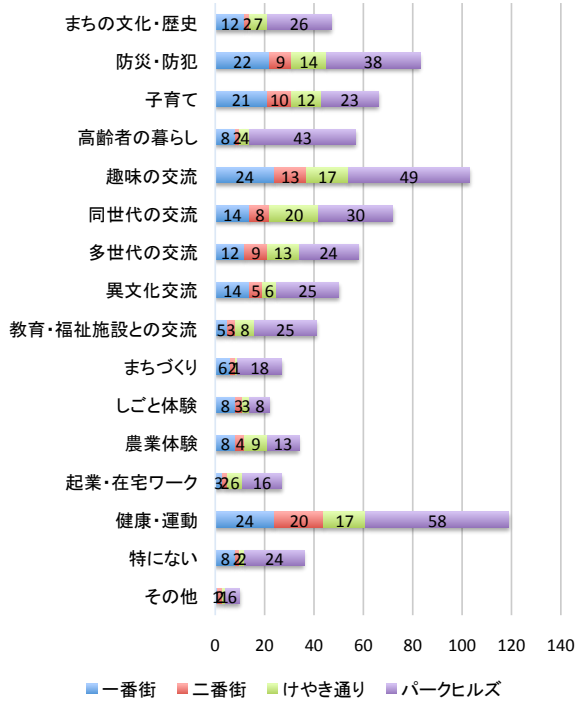

図 2-18. 企画したい／して欲しいイベントと住まい（複数回答／n=279）

図 2-19、20 は、「企画したい／して欲しいイベント」と「性別」「年齢」の関係を示したものである。「性別」について、「男性」の要望が「女性」を上回るものは「まちの文化・歴史」のみである。「年齢」については、当然のことながら「高齢者の暮らし」の希望者には高い年代が多く、「子育て」イベントの希望者の多くは若い世帯である。

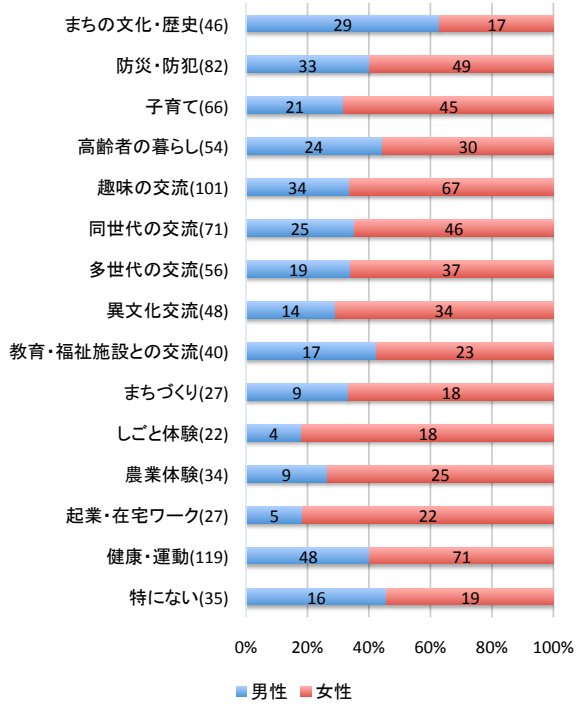

図 2-19. 企画したい／して欲しいイベントと性別

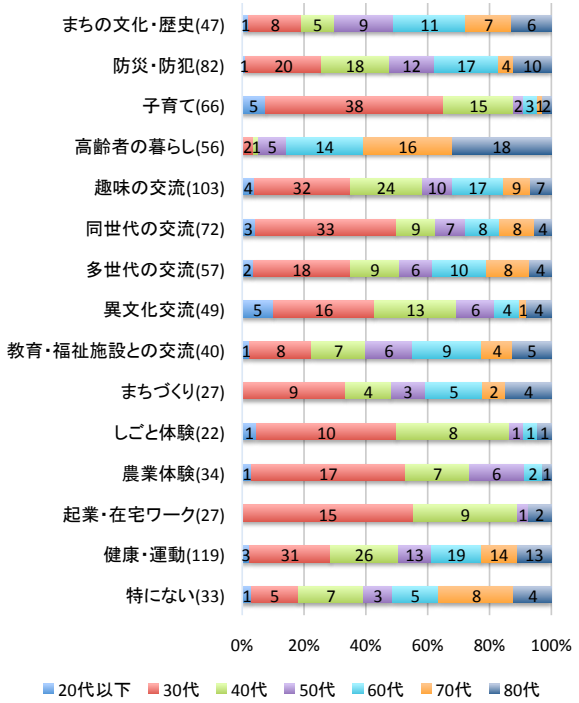

図 2-20. 企画したい／して欲しいイベントと年齢

「まちにわ」のイベントに対する意見・感想（自由回答）としては、「（平日昼間は時間の取りにくい）働くママ同士の交流ができたら」「子供のお昼寝アートのイベントがあったら参加してみたい」「子供を持たない人向けのイベントもほしい」「まだまだ認知度が低いので、どうやって広めていくか、アイデアが必要」「参加費を払ってまで参加しようとは思えないのが本音」「無料でできるものがあるとフラッと立ち寄ろうかなと思う」「参加する顔ぶれが決まっていて、入りにくいイメージがある」「子供が参加しやすい企画だと大人も自然に集まるのではないか」「子供と触れ合ったり、子育て中のママの力になりたいと思っている地域のお年寄りの方々と世代間交流したい」「子育てを終えた同年代の方と知り合えるようなイベントがあれば参加したい」「いま見えるニーズに応えながら順々にバリエーションを広げていけば、住民と一緒にイベントも成長していけるはず」「にわジャムはもう少し暖かい時期だったらよかった」「定期的に参加しないと親しい人はできないのでは」「年に一回、マンションごとのパーティがあれば」「来春の引っ越しを楽しみにしている」「小学生が参加できるイベントも増やして欲しい」「休日に限定しない」「皆さんが積極的に参加されていることに驚い

た」「回数を重ねるたびに内容も充実していると思う」「マンション内の交流が増えるイベントがもう少しあれば」「毎月会費を支払っているがあまり参加したいものがない」「一人でも参加しやすいイベントを希望」「ひばりが丘団地の再生と新しいコミュニティづくりへの意気込みが伝わってくる」「認知症サポーター養成講座を開催しては」「告知はネットを利用しない年配の方への配慮も必要」「わくわくするようなイベントが多く、いつも楽しみにしている」「活動母体がよくわからないので、参加するのに戸惑いを感じる」「気軽にふらっと参加できるイベントをやって欲しい」「カフェは気軽に立ち寄れるので情報収集に入ったことがある」「もっと広報に力を入れて欲しい」「住民の専門性を生かす企画はどうか」「散歩の途中にひばりテラスでのバザーに立ち寄ったが、以前近くに住んでいたのでなつかしかった」「なかなか難しい世代間交流をどう実現するか、まちにわ師さんに知恵を絞っていただきたい」「表の通りからひばりテラスのなかの様子がもっとわかるようにしてみては」などが挙がった。

3.「まちにわ」の運営

3-1. 運営への参加状況

図 3-1 は、「まちにわ」の運営にボランティア・スタッフ・理事などとして参加しているかどうかを尋ねたものである（図 3-2 に「住まい」との関係を示す）。現在、「参加している」と答えた居住者は 1 割に満たない。昨年度からの変化を見ても、「一番街」「二番街」ともに大きな変化はない（図 3-3）。

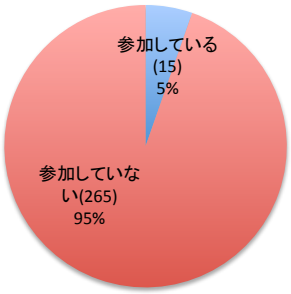

図 3-1. 運営への参加状況（n=280）

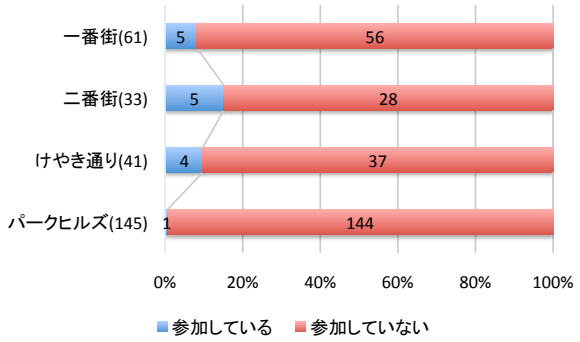

図 3-2. 住まいと運営への参加状況

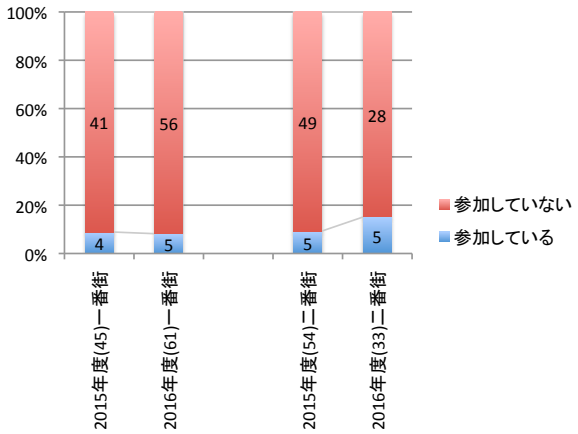

図 3-3.「まちにわ」運営への参加状況の推移

図 3-4、5 は、「運営への参加状況」と「性別」「年齢」との関係を示したものである。「性別」について、「参加している」回答者は「女性」より「男性」の方が多い。年齢は、「参加している」回答者に「30 代」が多いのが目立つ。

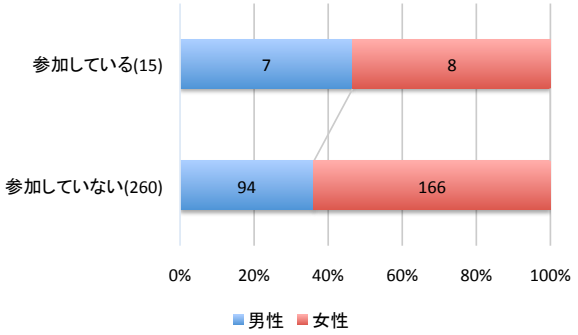

図 3-4. 運営への参加状況と性別

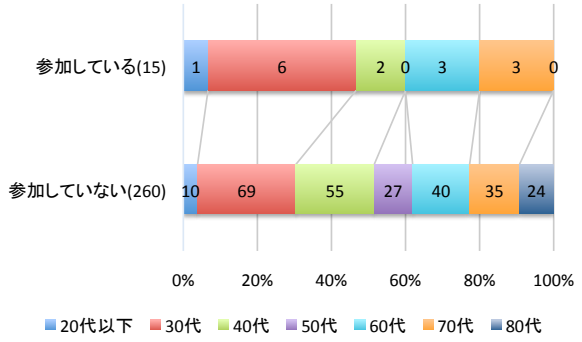

図 3-5. 運営への参加状況と年齢

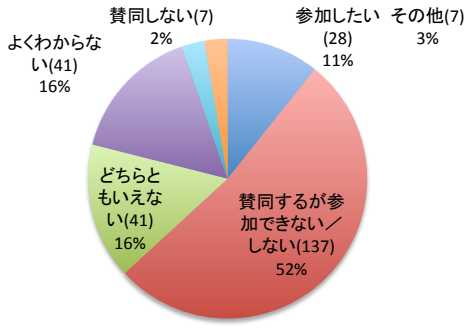

図 3-6. 運営への参加意向（n=261）

3-2. 運営への参加意向

一方、運営に「参加していない」と答えた居住者に今後の意向を尋ねたところ（図 3-6）、「参加したい」との回答が 1 割あり、エリアマネジメントのさらなる潜在的な担い手が少なくとも一定数存在することがうかがえる（「その他」には「今すぐではないが、いずれは携わってみたい」「仕事を持っているため（難しい）」「高齢のため無理」「参加形態はよくわからない。土日や休みの日なら参加してみたいのですが（運営にも）」「自治会の行事で大変なので参加できない」などのコメントが寄せられた）[3]。

「住まい」との関係を見てみると、「参加したい」という回答者は新しいマンションほど多い（図 3-7）。また、「どちらともいえない」「よくわからない」という回答も新しいマンションほど少ない。

昨年度からどう変化したかについては、「一番街」「二番街」とも「参加したい」回答者の割合は下がっている。また「どちらともいえない」「よくわからない」という態度の留保も減っている（図 3-8）。

図 3-9 は、運営に「参加したい」と答えた回答者に想定される「運営への参加形態」を尋ねたものである[4]。6 割が参加形態は「よくわからない」と答えている（「その他」には「今は仕事が忙しいができることがあれば参加したい」「イベントを企画」などのコメントが寄せられた）。

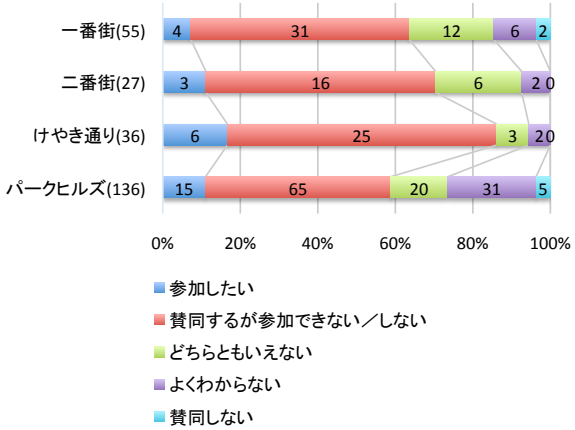

図 3-7. 住まいと運営への参加意向

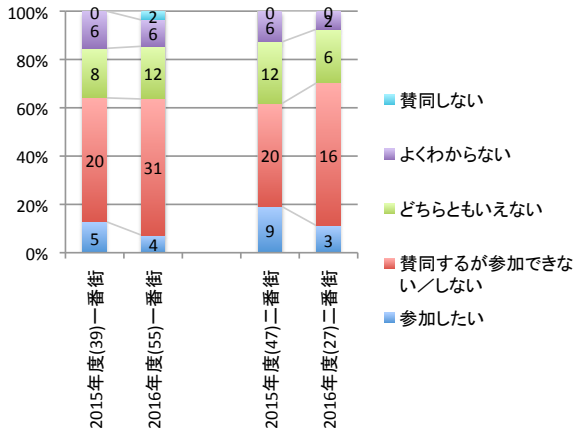

図 3-8. 運営への参加意向の推移

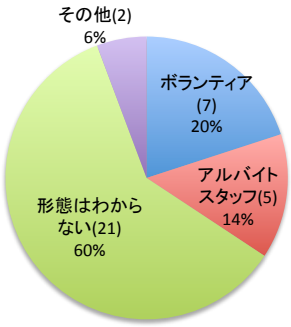

図 3-9. 運営への参加形態（n=280）

「性別」「年齢」と「運営への参加意向」の関係を図

[3] なお、この設問で設けた「（エリアマネジメントの）趣旨に賛同しない」の選択肢への回答はまったく見られなかった。
[4] 用意した「「まちにわ ひばりが丘」の理事として」の選択肢には回答がなかった。

3-10、11 に示す。「参加したい」と答えた回答者は「女性」や「30 代」にやや多い。「賛同しない」のはほぼ「60 代」以上である。

なお、運営に「参加したい」と答えた回答者は「まちにわ」への認識も高いが、必ずしもこれまでイベントに参加したことがあるわけではない（図 3-12、13）。

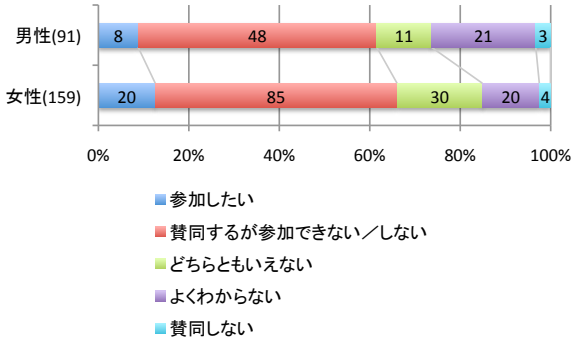

図 3-10. 性別と運営への参加意向

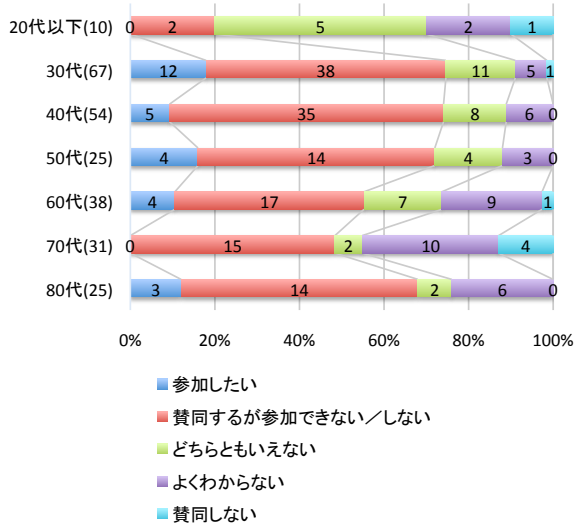

図 3-11. 年齢と運営への参加意向

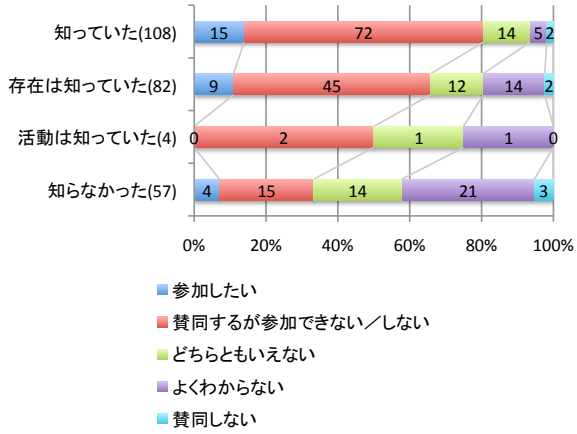

図 3-12. 「まちにわ」の認知度と運営への参加意向

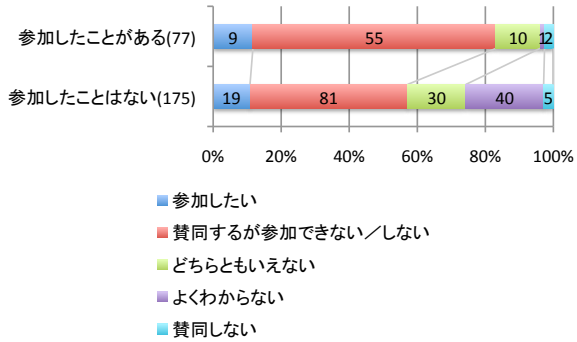

図 3-13. イベントへの参加状況運営への参加意向

4.「ひばりテラス」の利用・運営

4-1. 「ひばりテラス」の利用状況

図 4-1 は、エリアマネジメントの拠点である「ひばりテラス」内の「カフェ」「コミュニティスペース」「パーソナルスペース」のこの一年間における利用状況を示したものである[5]。最も利用率の高い「カフェ」では、すでに「利用している」が 5 割近く、まだ使ったことはないが「利用したい」も約 3 割を占めている。

図 4-2 には、エリマネ拠点の利用状況と「住まい」の関係を示した。「カフェ」は距離の近い「二番街」「けやき通り」の居住者の利用割合が高く、「コミュニティスペース」（図中では「CS と略称」）は会費を納めているマンション居住者の利用率が高い状況がうかがえる。「パーソナルスペース」（図中では「PS と略称」）は、「一番街」「パークヒルズ」の居住者の利用はほとんど見られない。

昨年度と比較すると、これらの利用率は、「一番街」「二番街」いずれでもおおむね上がっている（図 4-3、4）[6]。ただし、「利用したくない」との回答は、「二番街」では緩やかに減っているものの、「一番街」では増えている。

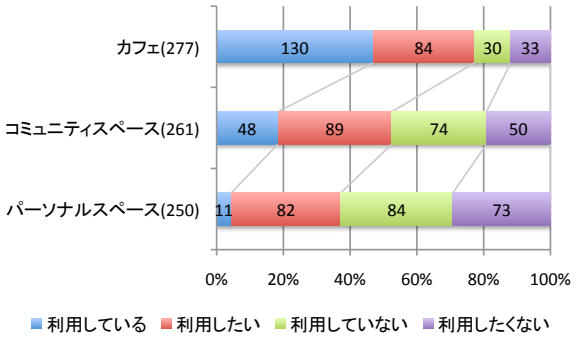

図 4-1.「ひばりテラス」の利用状況

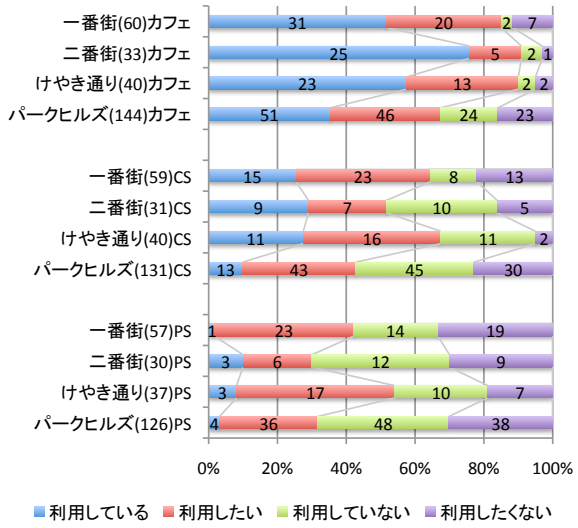

図 4-2. 「ひばりテラス」の利用状況と住まい

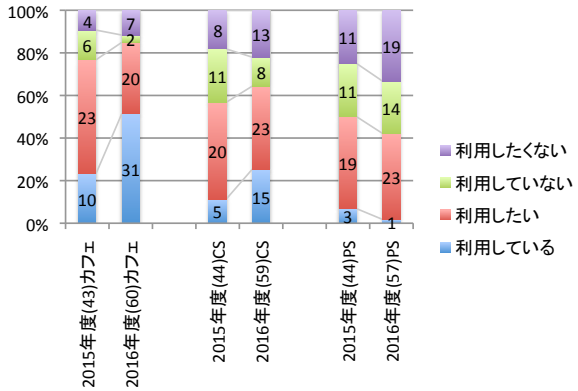

図 4-3. 「ひばりテラス」の利用状況の推移（一番街）

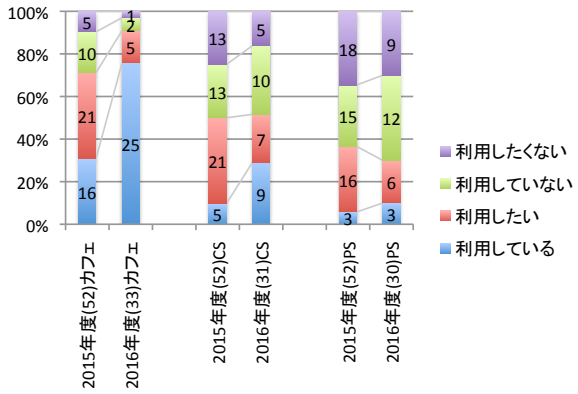

図 4-4. 「ひばりテラス」の利用状況の推移（二番街）

図 4-5 は、「ひばりテラス」の利用状況を性別間で比較したものである。総じて「男性」より「女性」の方が「利用している」割合が高い。

「年齢」との関係を見てみると、いずれの施設も若い年代ほど利用率が高い状況がうかがえる（図 4-6）。

[5] 「利用していない」回答者には利用したいかどうかの追加の設問を設けたが、この追加の設問に無回答だった回答が相当数あり、単に「利用していない」と分類した。

[6] ただし、2015 年度の調査は、エリマネ拠点がオープンしてまもなく行ったため、2016 年度と純粋に比較することはできない。

特に「コミュニティスペース」は大半が「40 代」以下の利用者である。

家族構成との関係では、「親と子（未成年を含む）」と「夫婦」からなる世帯の利用率の高さが目立つ（図 4-7）。

図 4-8 は、図 3-1、6 で見た「まちにわ」運営への参加状況・意向との関係を示したものである[7]。運営に「参加している」回答者はこれらの施設を実際に使っている割合が高いが、運営に「参加したい」と答えた回答者の利用率は必ずしも高くない。

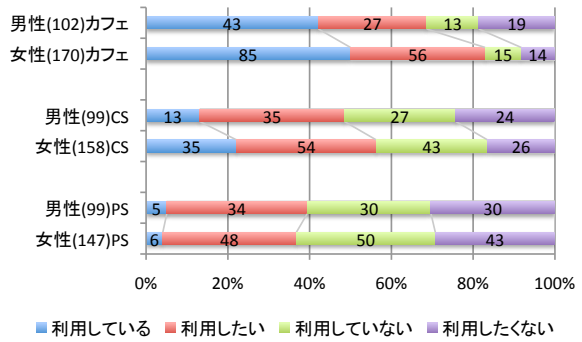

図 4-5. 性別と「ひばりテラス」の利用状況

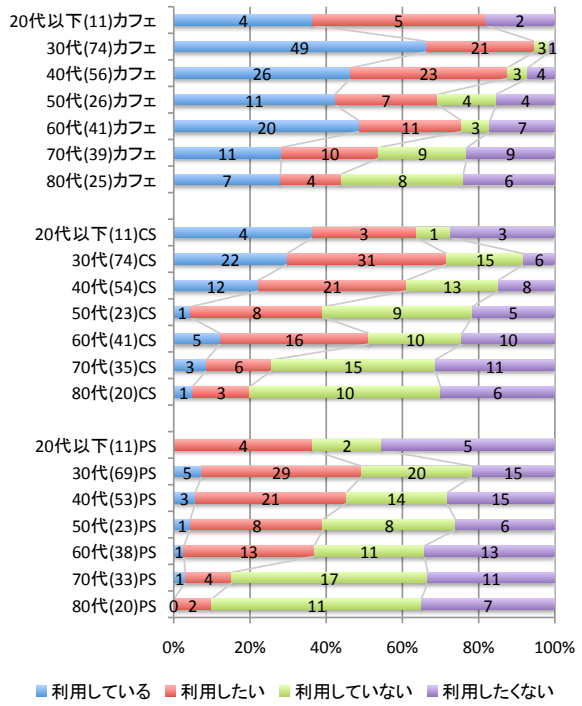

図 4-6. 年齢と「ひばりテラス」の利用状況

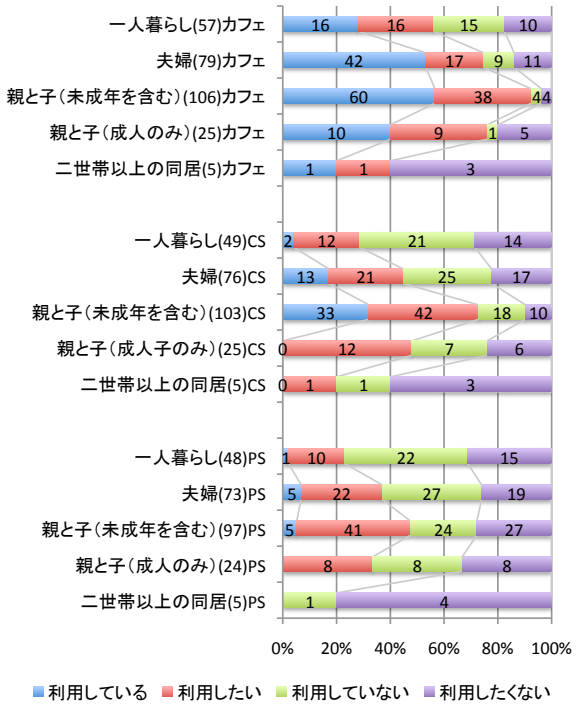

図 4-7. 家族構成と「ひばりテラス」の利用状況

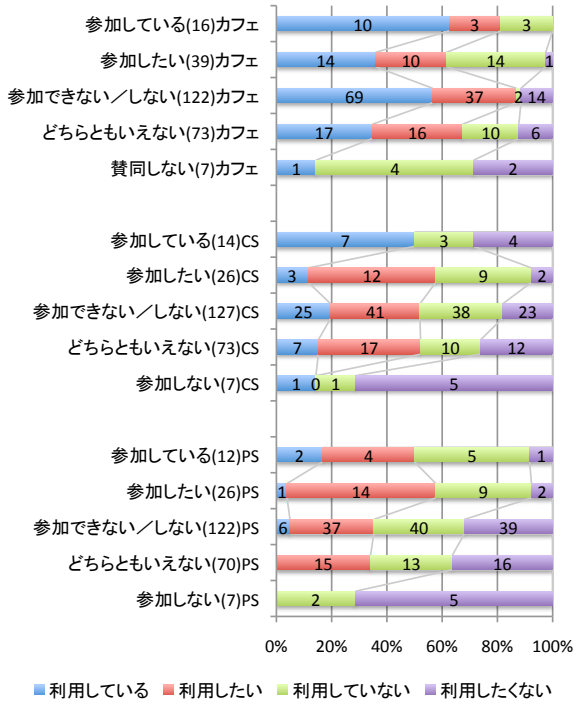

図 4-8. 運営への参加意向と「ひばりテラス」の利用状況

4-2. 「ひばりテラス」の認識と期待

「ひばりテラス 118」が「現在どういう場だと感じるか[8]」「今後どういう場になって欲しいか[9]」を尋ねたと

[7] 「運営への参加意向」の「よくわからない」は「どちらともいえない」に含めた。

[8] 自由記述では、「行きづらい」「子育て世代の交流の場」「赤ちゃん連れの育児の場」「存在意義がよくわからない」「やや内輪うけの場っぽく感じてしまっています」「“交流・憩い・情報発信の場”という場」「前を通っても人がいない感じがするので入りづらい」「存在は知っていても“あれは何かな？”と思っていた」などのコメントが得られた。

ころ、図 4-7 の結果が得られた。「交流の場」「憩いの場」「情報発信の場」「趣味の場」になっているとの「現状評価」がなされているといえるが、「見守りの場」になって欲しいとの「期待」も少なくない。また「交流の場」「その他」を除く項目で「現状認識」よりも「期待」の方が高い値を示しており、寄せられた期待は大きいといえる。

これと「住まい」との関係を見てみると、「現状認識」「期待」とも全体的に「二番街」で高い割合が示されている（図 4-8）。

図 4-9 は、「ひばりテラス」の「利用者」と「見利用者」の間で「現状認識」や「期待」に違いがあるかを示したものである。両者の「現状認識」や「期待」に大きな開きはないものの、「憩いの場」「情報発信の場」としての認識は「利用者」の方が「見利用者」よりも高い。

図 4-10、11 に、「一番街」「二番街」における「ひばりテラス」の「現状認識」と「期待」の変化を示す。「二番街」とは対照的に、「一番街」では「現状認識」「期待」とも回答数が減っており、特に「期待」の減少は著しい。

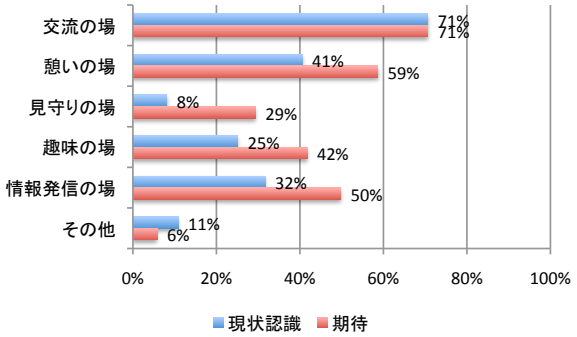

図 4-7.「ひばりテラス」の現状認識・期待（複数回答／n=259）

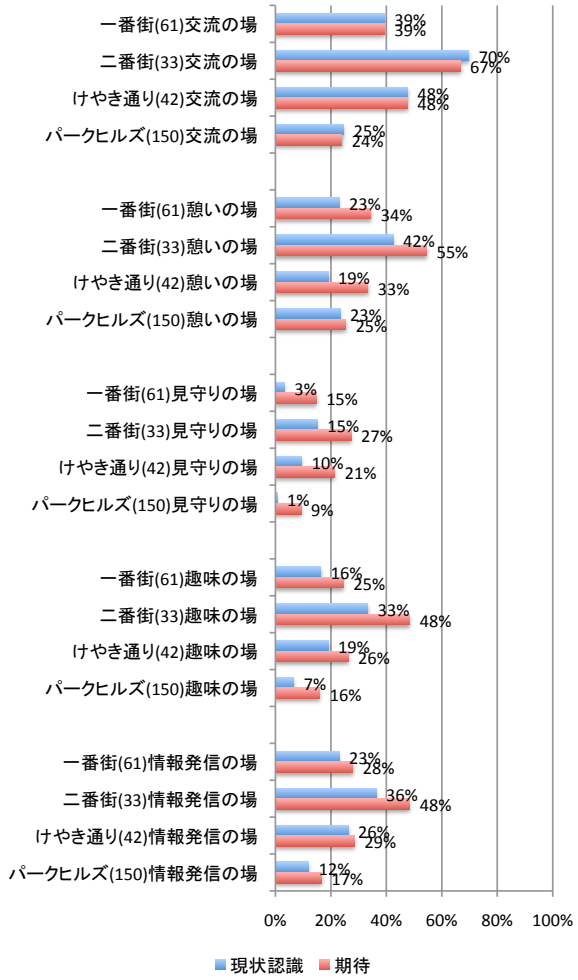

図 4-8. 住まいと「ひばりテラス」の現状認識と期待（複数回答）

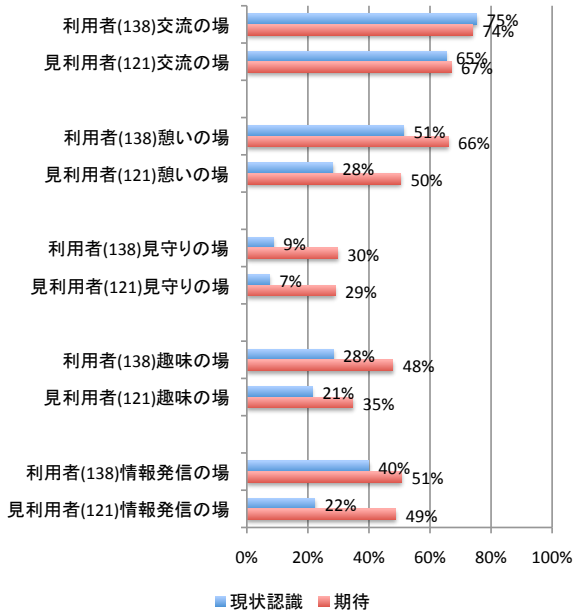

図 4-9. 「ひばりテラス」の利用の有無と現状認識・期待（複数回答）

[9] 自由解答欄では「賛助会員の利用が第一に考えられる場」「すべて」「お客様用の駐車スペース」「ゲストハウスで宿泊できるようになると嬉しいです」「よくわからない」「暇つぶしの場」「老若交流が出来ると有難い」などのコメントが得られた。

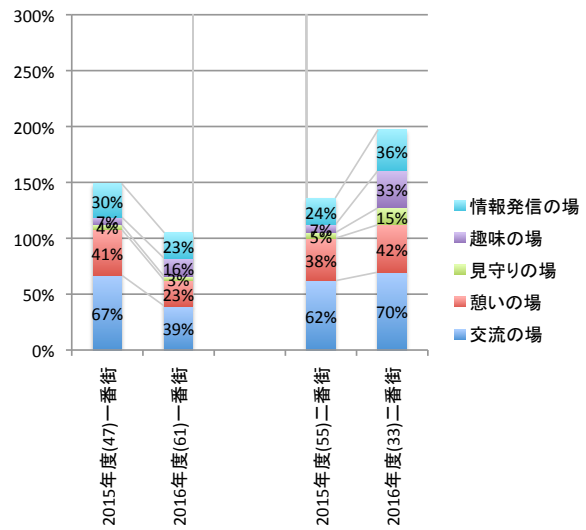

図 4-10. 「ひばりテラス」の現状認識の推移（複数回答）

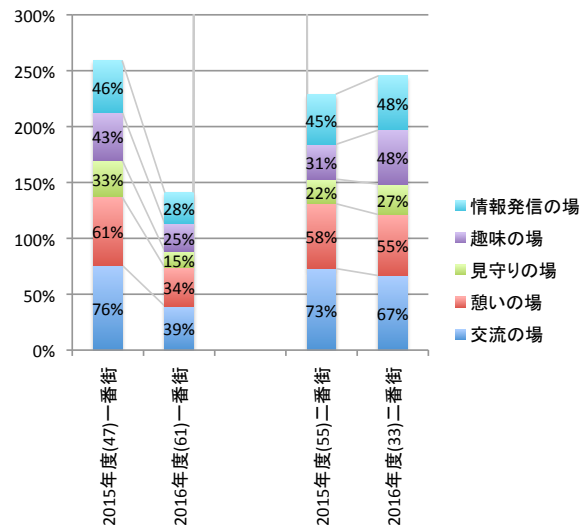

図 4-11. 「ひばりテラス」への期待の推移（複数回答）

図 4-12～14 は、「ひばりテラス」への期待と「性別」「年齢」「家族形態」との関係を示したものである。「見守りの場」となることを期待する回答者に「女性」や「親と子（未成年を含む）」からなる世帯がやや多いものの、その他は大きな傾向が見られない。回答者の属性に関わらず様々な期待が寄せられているといえる。

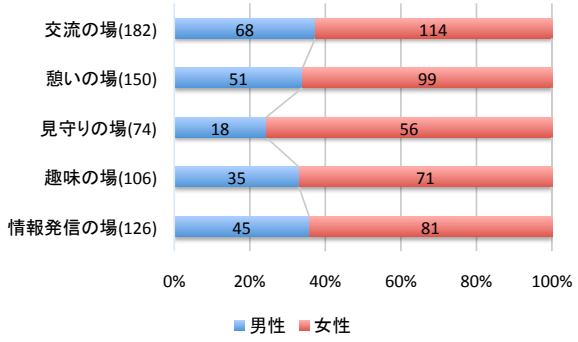

図 4-12. 「ひばりテラス」への期待と性別

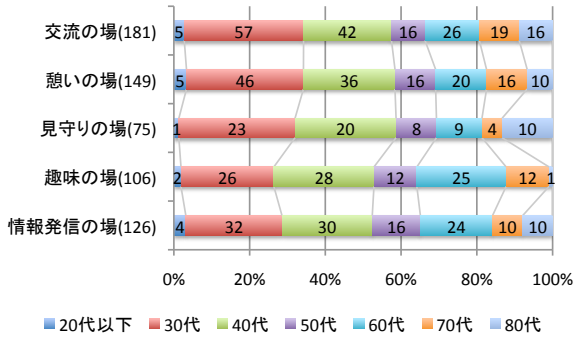

図 4-13. 「ひばりテラス」への期待と年齢

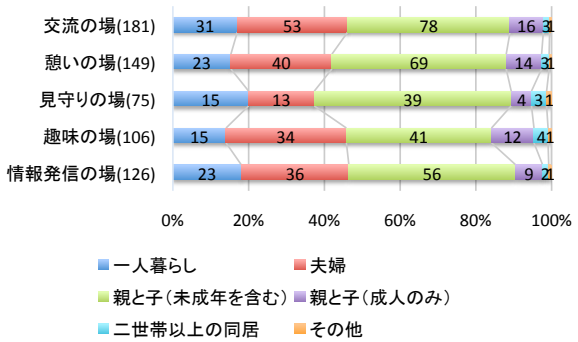

図 4-14. 「ひばりテラス」への期待と家族構成

5. 地域のつながり

5-1. 親しい人の有無

同じマンション・団地や地域の内外に「親しく話をする人」や「頼み事ができる人」がいるかどうかを尋ねたものが、図 5-1、2 である。

図 5-3、4 には、それを「住まい」別に示した。「マンション内・団地内」「ひばりが丘内」での「親しく話をする人」や「頼みごとができる人」は、マンションより「パークヒルズ」の居住者の方が多い。

昨年度のデータと比較した結果を図 5-5、6 に示す。

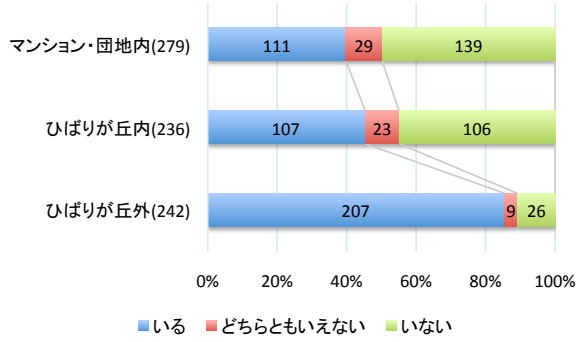

図 5-1. 親しく話をする人の有無

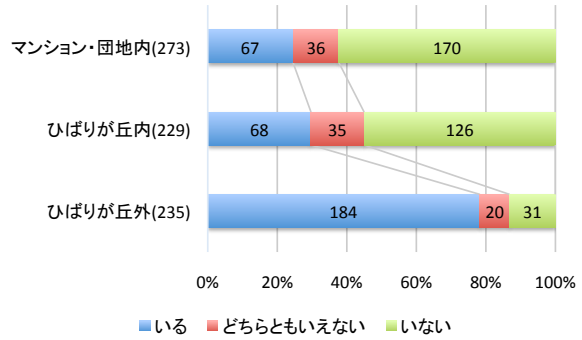

図 5-2. 頼みごとができる人の有無

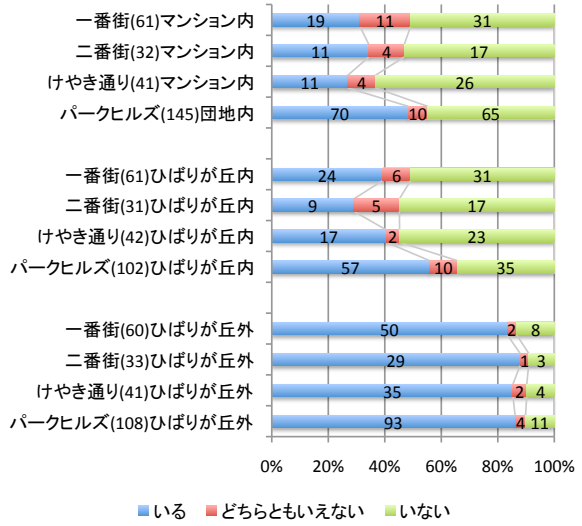

図 5-3. 住まいと親しく話をする人の有無

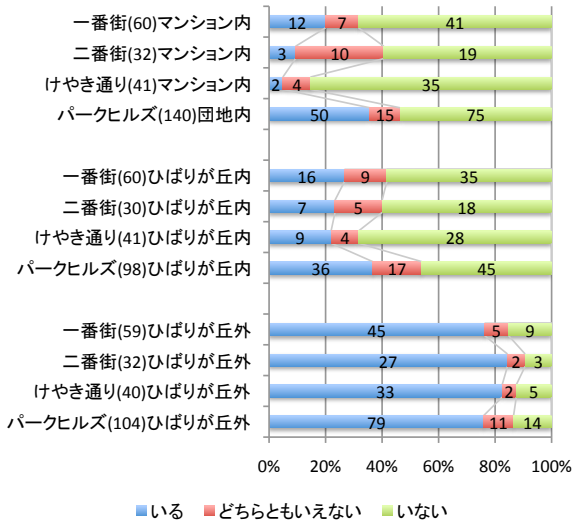

図 5-4. 住まいと頼みごとができる人の有無

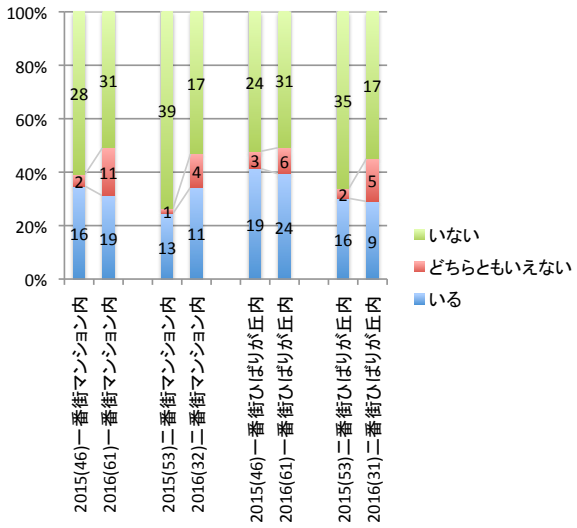

図 5-5. 親しく話をする人の推移

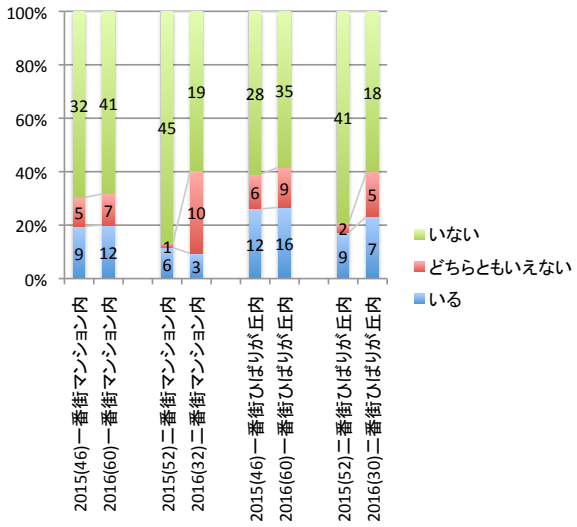

図 5-6. 頼みごとができる人の推移

5-2. 親しい人の変化

図 5-7、8 は、「親しく話をする人」や「頼みごとができる人」が「まちにわ」や「ひばりテラス」での交流を通して広がったかどうかを尋ねたものである。「頼み事ができる人」が増えるまでには至ってはいないものの、「親しく話をする人」が「同じマンション」内で「増えた」と答えた世帯が 2 割近く見られる。

これを「住まい」別に見てみると、「二番街」「けやき通り」において、マンション内の交流の輪がより広がっている状況がうかがえる（図 5-8、10）。

図 5-11、12 に、昨年度からの変化を示す。

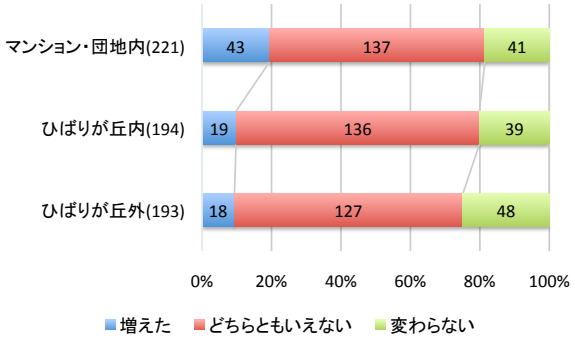

図 5-7. 親しく話をする人の変化

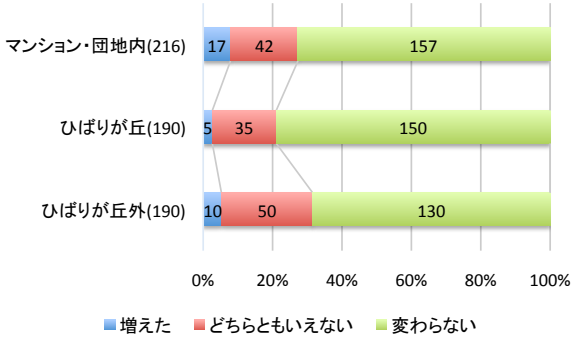

図 5-8. 頼みごとができる人の変化

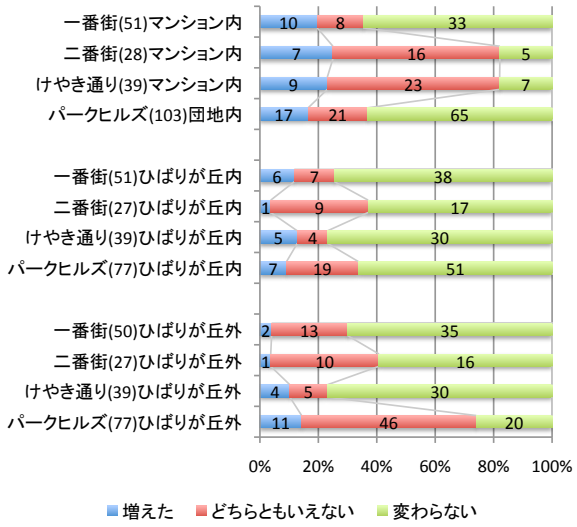

図 5-9. 住まいと親しく話をする人の変化

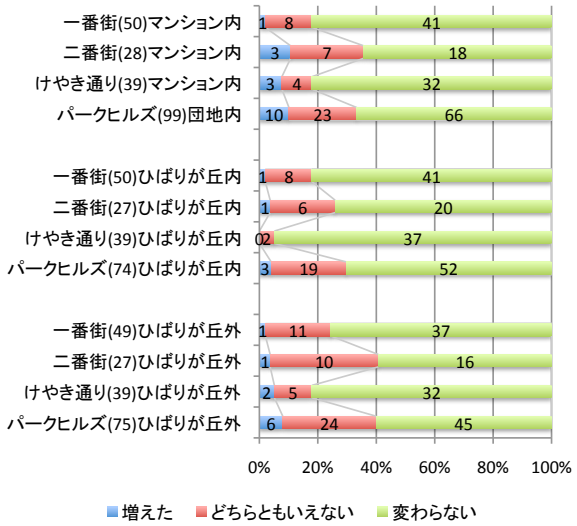

図 5-10. 住まいと頼みごとができる人の変化

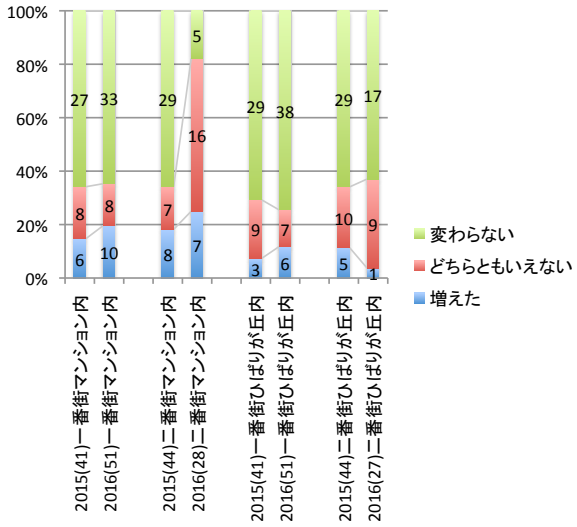

図 5-11. 親しく話をする人の変化の推移

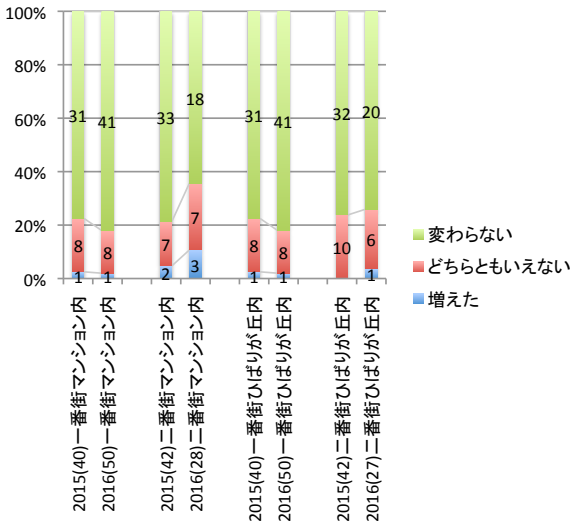

図 5-12. 頼みごとができる人の変化の推移

「性別」「年齢」「イベントの参加状況」が「親しく話をする人」の有無や変化にどう影響しているかをまとめたものが図 5-13、18 である。

「イベントへの参加状況」について、イベントに参加した回答者の 3 割が「マンション内」または「団地内」に「親しく話をする人」が増えている。図 5-19 は、「まちにわ」を通して「親しく話をする人」が増えた回答者が参加したイベントである。

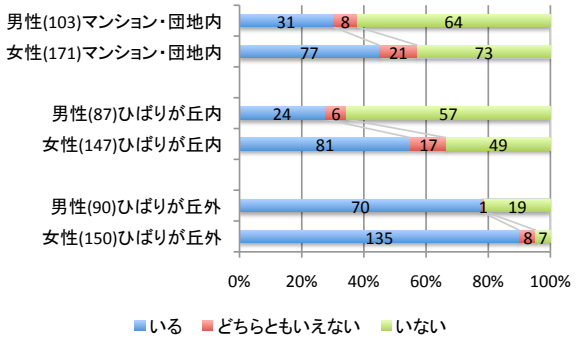

図 5-13. 性別と親しく話をする人の有無

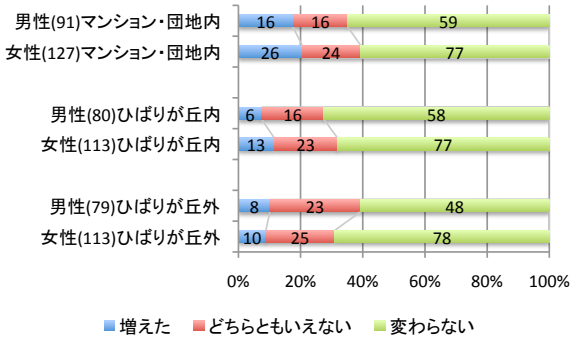

図 5-14. 性別と親しく話をする人の変化

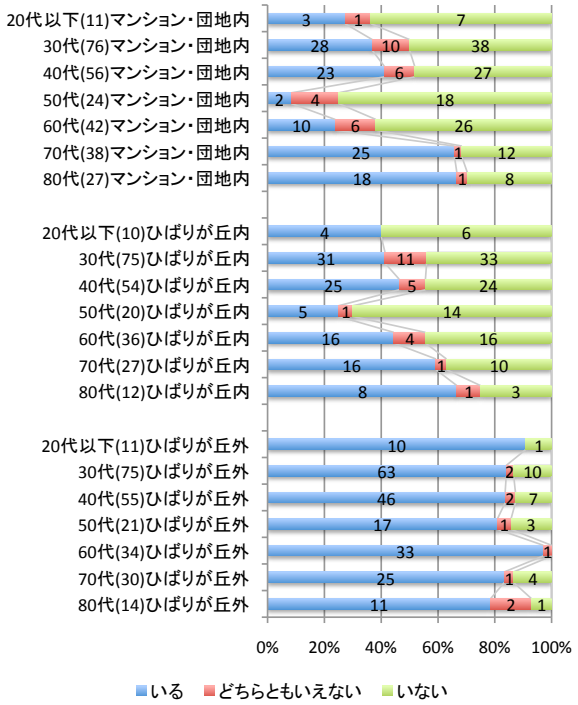

図 5-15. 年齢と親しく話をする人の有無

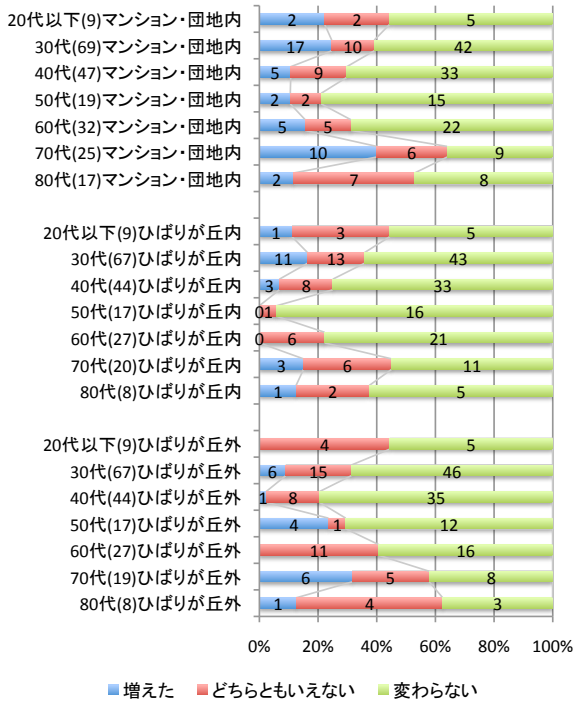

図 5-16. 年齢と親しく話をする人の変化

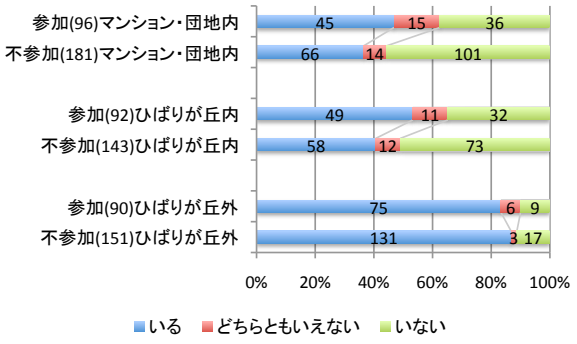

図 5-17. イベントへの参加状況と親しく話をする人の有無

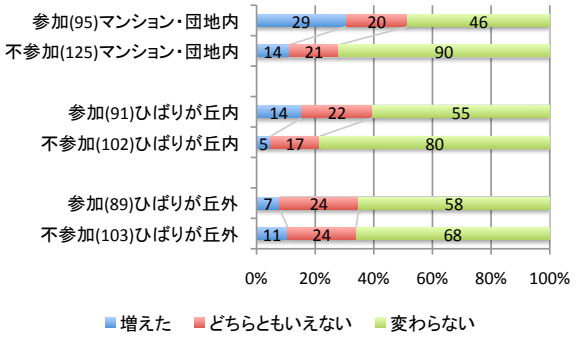

図 5-18. イベントへの参加状況と親しく話をする人の変化

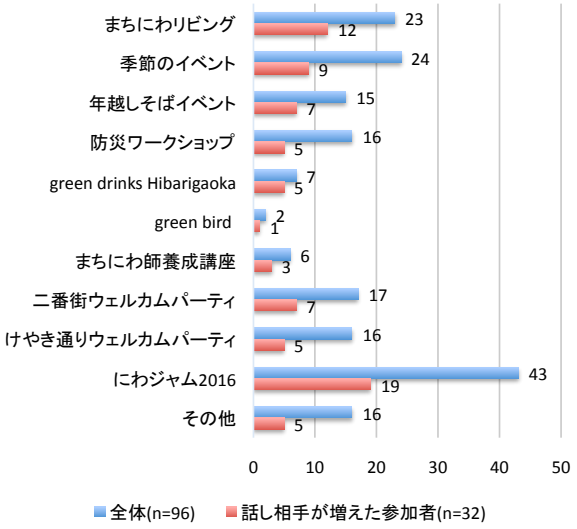

図 5-19. 話し相手が増えた回答者が参加したイベント

「まちにわ」や「ひばりテラス 118」での交流をきっかけに生まれた地域のつながりなどとしては、「いろいろな幼稚園の情報交換などができた」「会える時間が短く、一度しか会えないので友達にはなれなかった」「パパ友」「参加したイベントは知り合い同士で参加している人が多く、そこで初対面の人と率先して仲良くなろうという人が見当たらなかったです」「深いつながりではないが、同じマンションに顔見知りが数人できた」「同じマンションの方にとても親しみを感じます。名前と顔が一致する方が 2 ケタになりました！」「ひばりテラス 118 のようなスペースがなければ、地域のつながりはより作りづらかったと思う。ありがたい存在です。まちにわ師になったので、もっと多くの人を巻き込み、2020 年には住民主体で動けるようにしたいと考えています」「まちにわのイベントで会った方々、3 家族の方とは、お会いになる度にあいさつと 2，3 言葉かけをして楽しんでいます」「カフェスペースでママ友とおしゃべりすることが多いので貴重な場所です」「子育てに関するイベントで、同じ位の子供がいる方との交流を通しつながりが生まれた」「手作りのを私も作りたい！と一緒に作るきっかけになった。趣味で仲良くなるきっかけができるのカナ？」「夏祭りの際に手伝いをしたことをきっかけにたくさんの人達と交流することができました。今後もイベントを通じてたくさんの方々と知り合いたいと思っております」「マンションのウェルカムパーティを機会に隣の人やお子さんをおもちの上の階の方と親しくなった」」「まちにわリビングをきっかけに、そこで出会った方達と 1～3 ヶ月に一回ママと子供の交流会をしています」「自治会の行事にまちにわ、マンションの人が参加してくれました。今後も自治会の行事に参加してもらいたいと思います」「イベントなどで交流あり」などが挙げられた。

6. まちへの愛着と期待

6-1. 自分のまちという意識

図 6-1 は、ひばりが丘が「自分のまち」だと感じるかを尋ねたものである。「強くそう思う」「まあまあそう思う」との回答が 2/3 を占める一方、「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」という回答も 1 割近く存在する。

これを「住まい」別に示したものが図 6-1 である。「強くそう思う」は「パークヒルズ」で 2 割強と最も多いが、次いで多いのはマンションのなかで最も入居が遅

い「けやき通り」である（図 6-2）。図 1-12 で見たように、「けやき通り」には従前にひばりが丘での居住歴がある住民がおよそ 2 割いる。

図 6-3 に昨年度からの変化を示す。「一街区」では「自分のまち」という認識が高まっている状況がうかがえるが、「二番街」においては必ずしもそうではない。

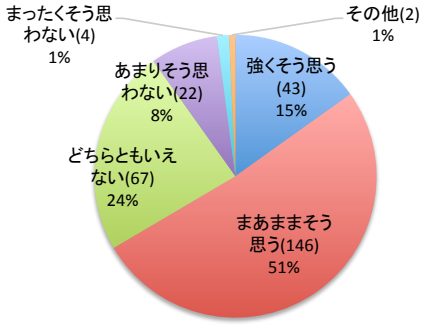

図 6-1. 自分のまちという意識（n=284）

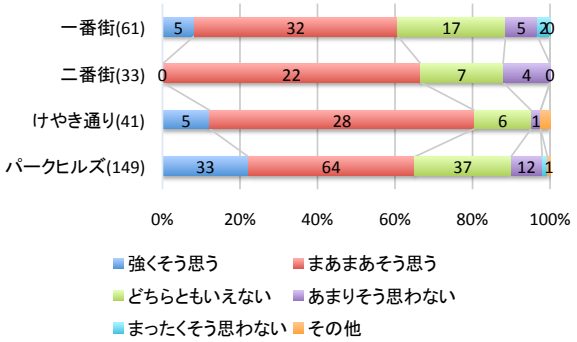

図 6-2. 住まいと自分のまちという意識

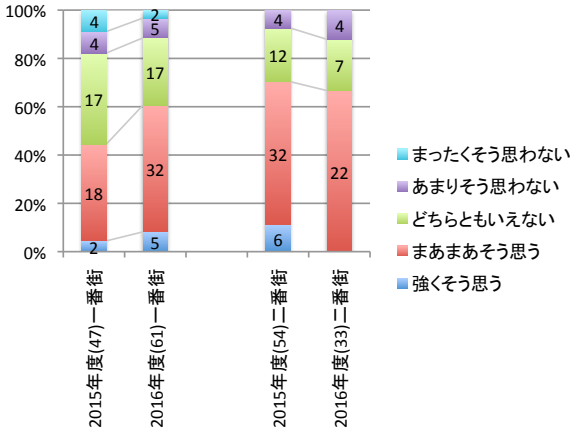

図 6-3. 自分のまちという意識の推移

図 6-4～9 は、ひばりが丘での自分のまちという意識」と「居住年数」「「性別」「年齢」「家族構成」「運営への参加状況・意向」「親しく話をする人の有無（ひばりが丘内）」との関係を示したものである。

この設問に対する自由回答としては、「引っ越してきたばかりなのでまだまだこれからだと思う」「これから自分のまちと感じられるようにしたい」「引っ越してきて 1 年未満なので答えが出ません。すみません」「ほっとするところです」「長く住んでいるので友人も多く満足しています」「静かでいい」「高齢の私共にも大変暮らしやすいと思います」などのコメントがあった[10]。

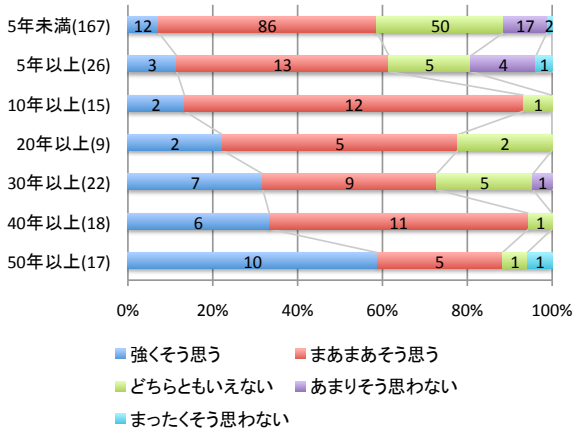

図 6-4. 居住年数と自分のまちという意識

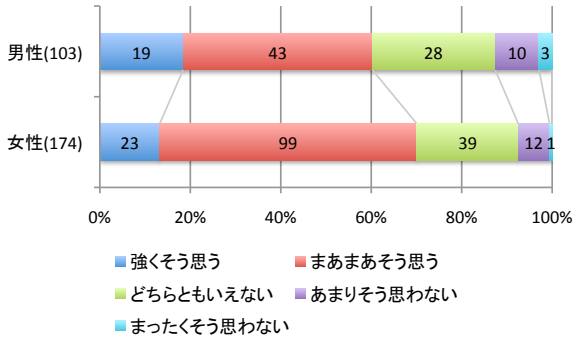

図 6-5. 性別と自分のまちという意識

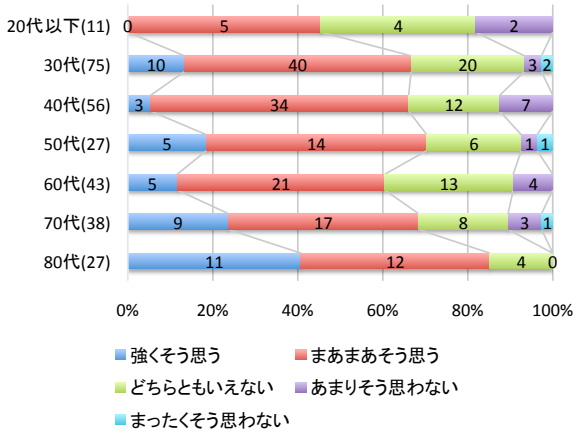

図 6-6. 年齢と自分のまちという意識

[10] 「まあまあそう思う」「まったくそう思わない」を選択した上での自由回答を含む。

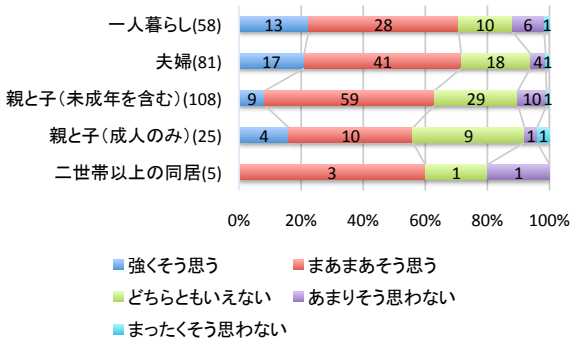

図 6-7. 家族構成と自分のまちという意識

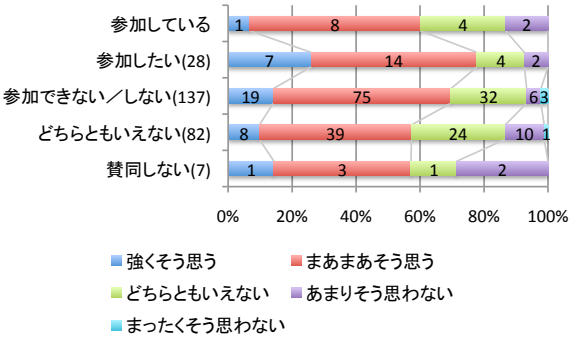

図 6-8. 運営への参加状況・意向と自分のまちという意識

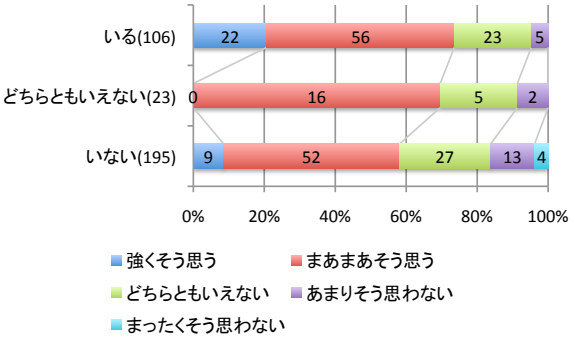

図 6-9. 親しく話をする人の有無と自分のまちという意識

6-2. まちの魅力と課題

図 6-10 は、ひばりが丘というまちの最大の「魅力」[11]と「課題」[12]を尋ねたものである。最大の「魅力」は「自然環境」や「まち並み・景観」に集中しているが、最も「課題」として回答の集まったもののひとつは、現状の評価が低い「まちの活気」である。

図 6-11、12 は、それらと「住まい」の関係を示している。ただし、回答が 2 桁に届かなかった項目は省く。

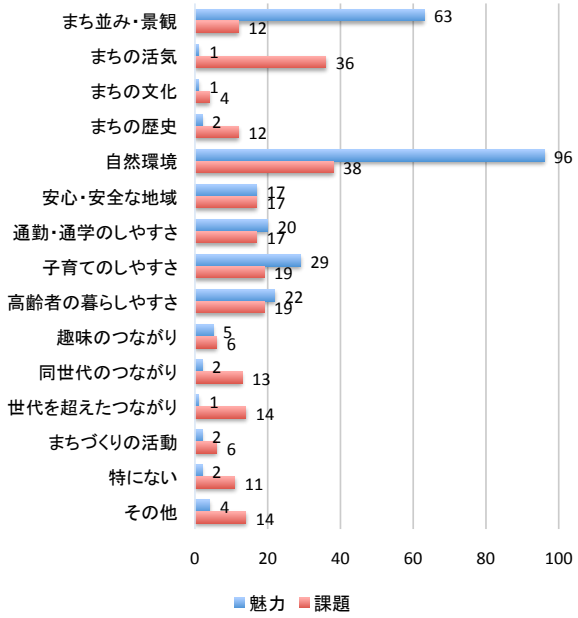

図 6-10. まちの最大の「魅力」と「課題」(n=261)

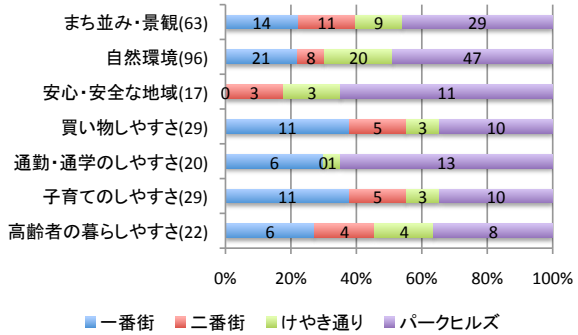

図 6-11. まちの最大の「魅力」と住まい

[11] 自由回答では「公共施設がある」「交通の便が良い」「公園が多い」「街並み」「コミュニティについての新たな取り組み」「子供が多い」「自分の求めている街並み・環境」「住みやすい」「スーパーはたくさんあります」「広場がたくさんある」「静か」「落ち着いていてのんびりしている」「高級住宅街という感じ」「都心へのアクセス」「バス便が多く有り大変便利」「散歩に最適」「緑の多い自然環境」「買い物のしやすさ」「空気が良い」などのコメントが得られた。

[12] 自由回答では「子供と大人の遊び場」「交通の利便性」「自転車専用レーン」「夜の明るさ」「遊具の多い公園」「周辺道路の安全。暴走、爆音車が野放し。そういう地域なのでしょうか」「街にすむ人たちの意識をもっともっと高めていく（集団としてのつながり）ご近所感覚」「緑地の保全」「チェーン店以外の飲食店」「遊具が充実した公園」「魅力的な商店や、商店街をつくってほしい。マンション付近で言えば、中原小学校の西友沿いにある商店街がゴースト化しているのがもったいない！！良い居酒屋やレストランなどもあるといい」「夏場の蚊の大量発生をどうにかしてほしい。子どもを外で遊ばせられないくらいひどすぎる」「ひばりが丘駅へのバスの便」「車のパーキング」「総合病院」「歩きやすい道に整えてほしい」「もう少しコスパの良いお店が欲しい（カフェも含め）。階段しかないお店もあるので、ベビーカーなどでも行ける様にしてほしい」「スーパーはあるのですが、洋服屋などが無い。ユニクロさえない」「学童、保育園がもっと増えると良い」「広めのカフェ」「駅ビル、駅周辺のバリアフリー化」「駅周辺に駐輪場が欲しい」「ペットの住みやすい街」「商店街もっと充実してほしいです。田無に行ってしまいます」「公園内に年寄向けの健康によい設備があったらいいな」「スポーツの街」などのコメントが得られた。

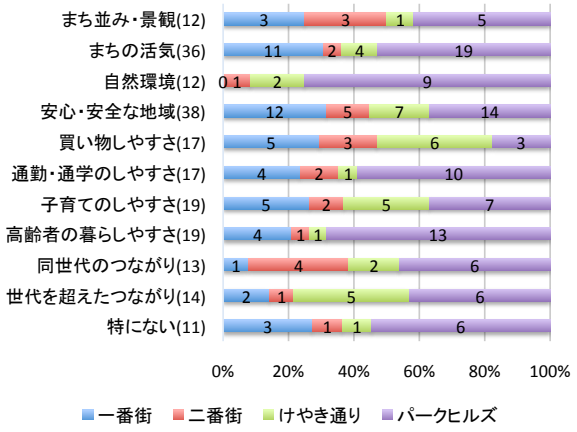

図 6-12. まちの最大の「課題」と住まい

図 6-13～15 は、これらの問いに対する回答を第 3 位まで集計したものである[13]。図 6-14、15 も同様に、回答が 2 桁に届かなかった項目は省いた。

図 6-16～19 は、「一番街」「二番街」の回答者による「魅力」「課題」（上位 3 位まで）の昨年度からの変化を示したものである。わずかではあるが、「魅力」としての「まちづくり活動」が伸びている。

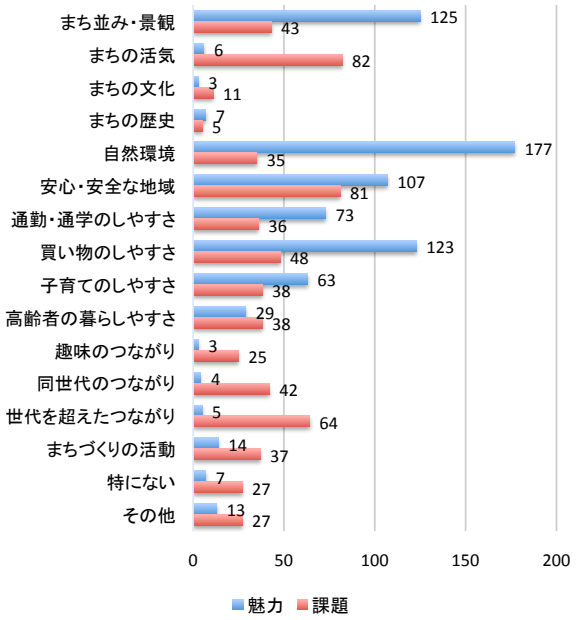

図 6-13. まちの「魅力」と「課題」（複数回答／n=261）

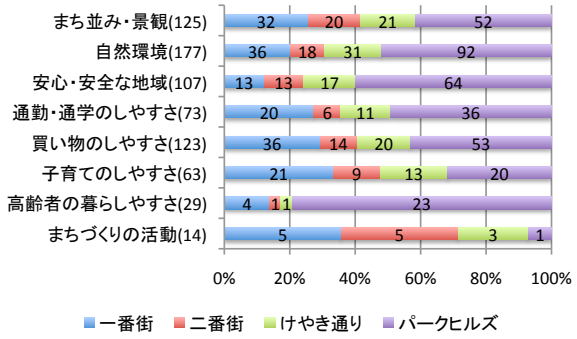

図 6-14. まちの「魅力」と住まい（複数回答）

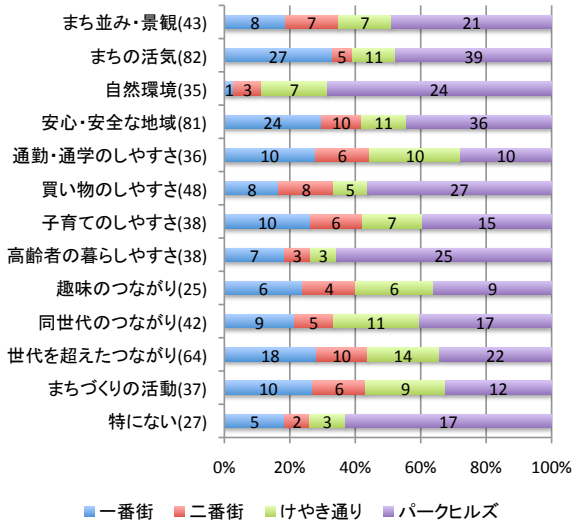

図 6-15. まちの「課題」と住まい（複数回答）

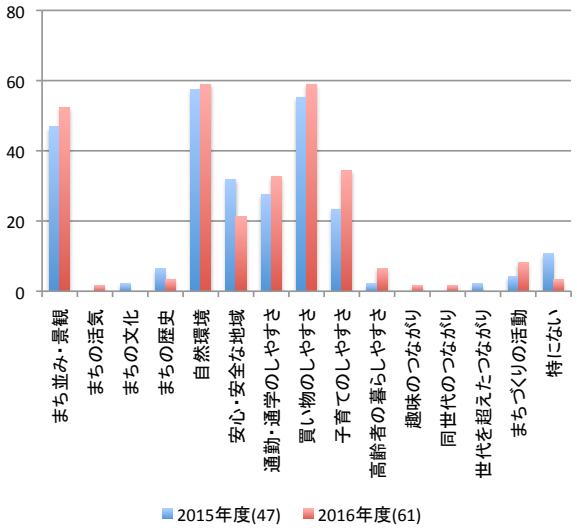

図 6-16. まちの「魅力」の推移（一番街／複数回答／%）

[13] 順位の重み付けはしていない。

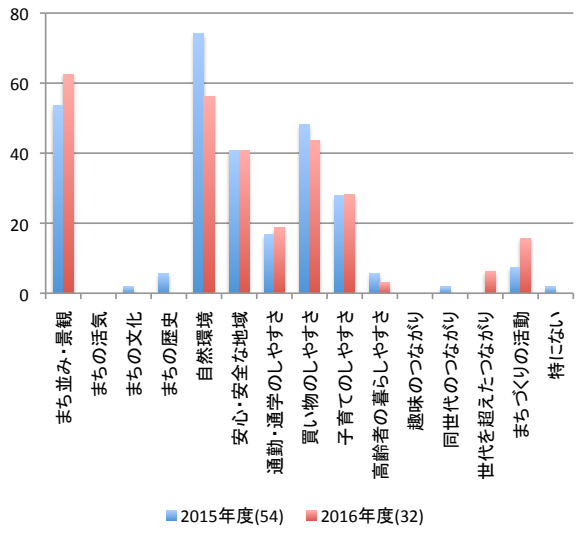

図 6-17. まちの「魅力」の推移（二番街／複数回答／%）

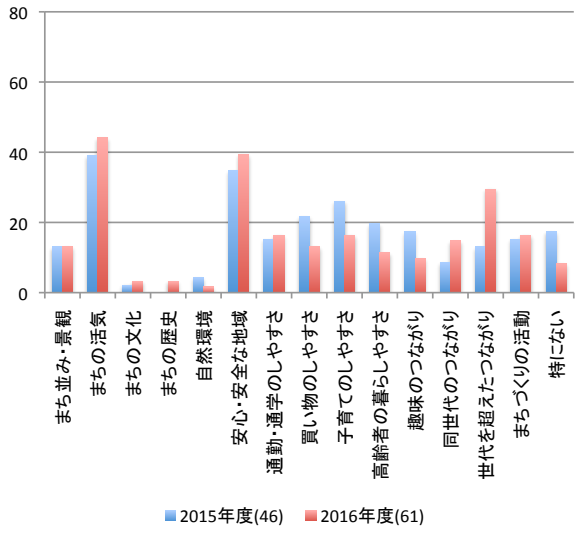

図 6-18. まちの「課題」の推移（一番街／複数回答／%）

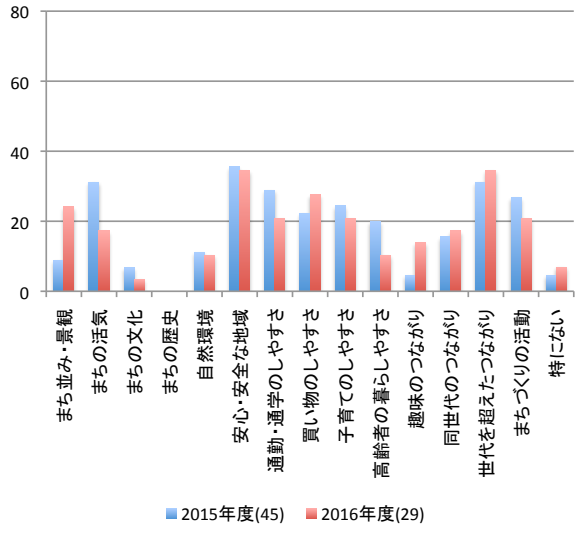

図 6-19. まちの「課題」の推移（二番街／複数回答／%）

最後に、ひばりが丘のまちづくり・つながりづくり全般に対する意見・感想・アイデアの一部を以下に挙げる。

- 女性向けが多いと感じる。男性でも参加したいと思えるような気晴らしができるようなイベントを持ってほしい
- 無理に趣味などで交流しようとするより、防犯などの対策を通した活動を増やす方が、自然と周りの人と関わるきっかけになるような気がします。（小学生の通学時間の見守り活動など）また、別件ですが、このアンケートいかかるコストが気になります。封筒や紙はもっと安い仕様のもので十分だと思うのですが…
- 同じひばりが丘でも市が 2 つに分れてしまっているのはつながりをつくる上で不利だと思った。（子供の学校が分れるなど）それを乗り越えて交流できたらいいと思う
- テラス 118 で子供たちと集まろうとした場合に、飲食する場合はカフェでの注文を原則とされると、子供たちに 1 杯 500 円のジュースは現実的ではないし、スナック菓子で済むところが何か一品となると価格も高くなり使いづらく、結局他の場所を利用してしまう。せっかくなので色々利用したいと思っているが、カフェとの結び付きが足かせになっている
- まちにわひばりが丘という活動があるのは、このひばりが丘の魅力の 1 つであると思います。他所に住んでいる人へ自慢したくなるくらいです。数年後には街の人に運営をゆずるというシステムも画期的だと思います。今は試行錯誤しながらの日々だと思いますが、是非頑張っていただきたいです
- 現在は仕事をしているので、平日の参加はできませんが、フリーになった時には、同世代の交流の場として、参加してみたい
- これだけ多世代が暮らしている街はあまりないと思います。長らく住まっている方々、まだ住み始めたばかりの方々が、気兼ねなくつき合える街、かなり理想に近い考え方だと思いますが、そのようになれば喜ばしいことと考えます

- 畑がなくなり、宅地化すると町の魅力が失われてしまう。UR 敷地内は良く整備されていて散歩に最適なのだが
- 同じ市内から現在のマンションに引っ越して早 2 年です。ひばりが丘団地は近くでしたので子供たちが小さい頃から良く知る地域でした。しかし最近のひばりが丘団地の環境の変化には驚くばかりです。とても嬉しくもありますが…年齢的に順応するのに少々時間がいると思います
- いつもお疲れさまです。ひばりテラス 118 でなくても近所でこども食堂をやりたいと思っています。まちづくりをデベロッパーから地域への根付きという step を追って作り上げる取り組みを楽しみにしております
- もともと静かなまちだったと 11 年間ひばりが丘に住んで思います。今のようにひばりテラス 118 が地域の方々に交流の場として活躍して欲しいと願っています。1 年間、スタッフの方々よく頑張られたと思います
- いつでも知っている人がいる場所にひばりテラスがなれば良いのにと思う。街の防犯のために土日等にパトロールするのもありかも、夜中車がうるさいため
- 近隣に駐車スペースが少なく不便。せっかく街並みのキレイな場所に住んでいてもお客様用の駐車場を毎回きにしなくてはならない事がストレス。人を呼べない
- 主婦層を対象に非常勤・常勤雇用説明会をしたいと考えているが、まちにわでそういった機会を提供する取り組みができないか
- フィールズ全戸うまったようなので、もう一度、コミュニティ作るための集まりがあると嬉しいです。子育て世代が多いので、何日かに分けて、「0 歳子ども家族の会」「1 歳～」「2 歳～」というように、子供同世代のコミュニティが作れる集まりあるとよい
- まちにわひばりが丘の運営ありがとうございます。今後も宜しくお願い致します
- Twitter で活動発信などしたらいかがでしょうか
- 世代をこえての町づくりを希望いたします。公団のころは、世代をこえての係わりが多かったように感じます
- まちにわのチラシを見るたびに敬意を表しております。よくやっておられますね。しかし、私は手足が弱り、自分のことも思うようにできない状態でボランティアもできず申し訳ないこととおもっております。日頃の御努力ありがとうございます。多謝
- 土日が休みでは無いのでイベントがあっても参加出来ないのですが何となくひばりテラス 118 の事は興味があるので今後の活動楽しみにしています。カフェが出たら勇気が出たら利用してみたいと思います。何となくですが。ひばりが丘団地はイオン以外にカフェなどの飲食店がないのでいいですね
- 趣味の講座などが、手軽にできる場所になって欲しい（内容的にも料金的にも）。HP だったり SNS 発信が活発だと、より良く知れる？ワークショップも開催してもらえたら行きます!!子供と一緒に参加できるお手軽イベントもあったらいいな…
- まちにわの存在、企画は魅力的だと思います。今後、何らかの形で参加したいと思います
- 活動を広く認知させる必要がある
- 子育て世帯が多い割に、保育施設が少ないです。保育所とまではいかなくとも、ファミリーサポートの様な物が充実してほしいです。働きたくとも働けない主婦が周囲に多いので、少しでも活躍できるモデルをこのひばりが丘から発信できるようになったら素晴らしいと思います
- がんばってください。何かできることがあればお手伝いします
- UR 側と新築マンションの世帯層が違いすぎる。あと 10～15 年ぐらいすれば揃ってくるのでそのころにはいい環境が作れるのでは
- いろいろな世代の人が「気軽に立ち寄れる」と感じられる場になると良いと思います。そのため

には北側の通路を活用（通行車の目にとまる）した野菜や花の直売り、リサイクル市などはいかがでしょうか。「縁側的」なスペースを活用すると良いと思います

- 具体的に何を目的としているのか、わかりやすく伝えてください。イメージは分かりますが、何がどう変わるのか、変えようとしているのかわかりません
- ひばりが丘団地のまち並み、景観を気に入り、末永く住んでいきたいと思っています。そのようななか、私も何らかのかたちでまちづくりや人と人とのつながりづくりのお役に立てればと考えておりますが、なかなか踏み出せないことがもどかしいです
- ひばりが丘団地の桜は本当にきれいでした。それが全部伐採されてしまいとても残念です。又、いつの日か花と緑に溢れるエリアになって欲しいです
- 団地自治会とも協働して活動したら！
- お安い（食品）お店常に出店ほしい。団地の回り、イオン・西友・はなれて coop しかない。まちにわで常営してほしい
- 室内コールについて火事以外は外に聞こえない。一人暮らしにとって全く無益なもの。せめて警察に（交番でも）つながらなければ意味がない。先日風呂場事故があってつくづく無力を感じた
- 更に環境を大切に安心して住み続けられる街、人と人との交流を大切に明るい街づくりをめざしてもらいたいと心から願っております
- 災害時の対策はどうするのですか。組織が整っているのですか？
- 古い団地も新しい町になりお年寄りだけでなく若い人達も増えてエレベーターの中で小学生とお話しが出来てうれしくなります。これからは若い人達の中に入っていく機会も増えるかも知れませんね
- 特に高齢者として更に暮らしやすい環境を望みます
- ピピ通りの商店街が非常に淋しくなってしまった。ひばりが丘駅方面と田無駅方面にばかり出かけてしまって団地は散歩コースになってしまった。いいアイディアが浮かびません。以前はあんみつやさん、やおやさん、銀行やセブンイレブン、coop 等ありましたが全部なくなりました